

令和8年度 講義要目 特別聴講生用 目次

日本文学概説	1	西洋経済史	37
哲学	2	日本企業論	38
倫理学	3	金融論A	39
美術史	4	金融論B	40
世界史	5	国際経済学	41
地球科学	6	アジア経済論	42
生物学	7	国際金融論	43
数学	8	地域経済論◆	44
統計学Ⅰ	9	地方自治論	45
統計学Ⅱ	10	農業経済学◆	46
心理学A	11	地域福祉論	47
心理学B	12	労働と法◆	48
生涯発達論	13	政治学	49
法学A	14	行政学	50
法学B	15	経営戦略論◆	51
文化人類学	16	人間関係論◆	52
地域文化遺産論◆	17	消費者行動論◆	53
経済学入門C1	18	マーケティング論◆	54
経済学入門C2	19	経営イノベーション論◆	55
経済学入門C3	20	観光ビジネス論◆	56
公共政策入門C1	21	商法	57
公共政策入門C3◆	22	企業法務論	58
経営学入門◆	23	保険論◆	59
社会文化入門C2	24	日本文化講義A	60
経済データの読み方	25	日本文化講義B	61
基礎経済学	26	アジア文化講義A	62
マクロ経済学AC1	27	アジア文化講義B	63
マクロ経済学B	28	欧米文化講義B	64
ミクロ経済学AC2	29	国際関係論A	65
経済学説史A	30	国際関係論B	66
経済学説史B	31		
経済統計学	32		
計量経済学	33		
社会経済学	34		
日本経済史A	35		
日本経済史B	36		

- M E M O -

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本文学概説（日本近現代文学を学ぶ）	渡邊 浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「文学とは何か」——本講義ではこのような問いについて、明治から平成にかけての近現代小説や近代詩を扱っていくなかで検討し、文学作品の読み方について学んでもらいたいと考える。具体的には、近代小説及び近代詩のなかでも、何事かに向け、情熱や悲哀をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していく。さらにこの授業では、「文学」が、人間が社会生活を送っていく際に突きつけられる矛盾や不条理に対し、どのように対処すべきなのかという「選択」する力を身につける学問であることも理解してもらうことも目的である。

(3) 到達目標

- ① 「文学とは何か」を理解し、文学作品の読み方について学んでいく。
- ② それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題をとらえ、個々の問題意識を深め、理解できるようになる。
- ③ 文学作品の読解を通して、将来起こる自身の問題についての「選択」する力を身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	文学を学びたい人のために
2	文学とは何か①	「文学」と「国語」の違いとは何か？
3	文学とは何か②	「文学」とは「人間学」である
4	近代文学史（1）	明治の日本文学 ——写実主義／擬古典主義／浪漫主義／自然主義などの文学——
5	近代小説を読む（1）	田山花袋「蒲団」
6	近代文学史（2）	明治の日本文学 ——反自然主義／耽美波などの文学——
7	近代小説を読む（2）	谷崎潤一郎「刺青」
8	近代文学史（3）	大正の日本文学 ——白樺派／新思潮派などの文学——
9	近代小説を読む（3）	武者小路実篤「お目出たき人」
10	近代文学史（4）	芥川竜之介「西郷隆盛」
11	近代小説を読む（5）	昭和・平成の日本文学 ——プロレタリア文学／モダニズム文学／戦時下／戦後の文学——
12	近代小説を読む（6）	江戸川乱歩「人間椅子」 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
13	近代小説を読む（7）	太宰治「斜陽」
14	近代小説を読む（8）	文学史のまとめ（確認テスト）
15	近代詩を読む／まとめ	中原中也・草野心平・茨木のり子などの詩／授業のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメ使用）が、複数回にわたりペアまたはグループ活動を行う。授業では特定の教科書は使用しないが、授業内で配布する文学史に関するプリントや文学作品については、時間外学習として読んでおくことが望ましい。授業後には毎回コメントシートを使用し、近代文学史に関しての確認テストを1度行なう予定である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題（70%）、② 定期試験に代わるレポート（30%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進捗・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性はある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
哲学（哲学の基本的問題の紹介と解説）	永野 潤	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

哲学（フィロソフィー）の語源は、「知を愛する」という意味のギリシア語である。この講義では、哲学の基本的問題について考える。ただし、哲学は、問題に答を出すことをかならずしも目的にはしていない。むしろ、問題を見つけだし、答の出ない問題について考えるその過程が哲学だ、と言える。

この講義では、さまざまな問題について「哲学的に考える」ということがどういうことか知ってもらい、その「おもしろさ」を体験してもらいたい。題材として、マンガ、映画などみなさんになじみの深いものを用いる予定である。

(3) 到達目標

- ① 哲学の基本的問題について説明できる。
- ② 「哲学的に考える」ことができる。
- ③ 柔軟に思考できる。
- ④ 論理的に思考できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	哲学について	タウマゼイン、嘘つきのパラドックス他
2	認識について 1	素朴実在論、知覚の因果説、第二性質
3	認識について 2	無限後退、洞窟の比喻
4	意識について 1	夢の懐疑、水槽の脳、5分前創造仮説
5	意識について 2	我思うゆえに我あり、現象学
6	身体について 1	心身二元論、機械の中の幽霊、心身問題
7	身体について 2	心的一元論、物的一元論、現象的身体
8	自由について 1	機械論と目的論、決定論、リベットの実験
9	自由について 2	不安と自由のめまい、自己欺瞞
10	自己について 1	数的同一性と質的同一性、テセウスの船、人格の同一性
11	自己について 2	転送機のパラドックス、非反省的意識、対自存在
12	他者について 1	他我問題、逆転スペクトル、独我論
13	他者について 2	類推説、行動主義、対他存在
14	演技について 1	実存と本質、チューリングテスト、イライザ
15	演技について 2	オリジナルとコピー、規律訓練、パノプティコン

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。
- ・次回授業までに Teams(microsoft forms)を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。
- ・教科書の該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（35%）、② 毎回の授業コメントおよび授業中の活動の提出（45%）③理解度確認テスト（20%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	改訂版 イラストで読むキーワード哲学入門	永野潤	白澤社	1,980円
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

倫理学

(9) オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。
進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
倫理学（倫理学の基本的理論の紹介と実例による考察）	永野 潤	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

倫理学は、道徳哲学とも言われるが、世間で通用している善や道徳をそのまま受容するのではなく、善や道徳について哲学的に考察する学問である。この授業では、そうした倫理学の基本的考え方について講義するが、同時に、障害、安楽死、優生学、ジェンダーなどの具体的問題についてともに考えながら学ぶ。講義中に配布するプリントに沿って授業を進める。

マンガや映画などを題材に、かたくなに授業をめざす。

実際に自分の頭で考えながら授業に参加してほしい。

(3) 到達目標

- ① さまざまな社会問題について説明できる。
- ② 偏見や先入観にとらわれず思考できる。
- ③ 創造的に思考できる。
- ④ 人権について説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	倫理学とは何か
2	自己決定の問題1	自己決定とパターナリズム
3	自己決定の問題2	バイオエシックス、健康格差
4	義務論と目的論1	ベンサムと功利主義、カントの倫理学
5	倫理的ジレンマの問題	倫理的ジレンマの批判
6	障害と社会の問題1	医学モデルと社会モデル
7	障害と社会の問題2	障害者の権利獲得運動
8	安楽死・尊厳死の問題1	安楽死と自己決定
9	安楽死・尊厳死の問題2	社会で支えるという選択肢
10	優生学の問題	優生学の過去と現在
11	ジェンダーの問題	自己決定とジェンダー
12	性的マイノリティの問題	性的マイノリティと人権
13	格差と貧困の問題	生存権と生活保護
14	移民・難民問題	南北問題と移民・難民
15	環境問題と戦争	差別と公害、携帯電話と戦争

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。
- ・次回授業までに Teams(microsoft forms)を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。
- ・教科書の該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（35%）、② 毎回の授業コメントおよび授業中の活動の提出（45%）③理解度確認テスト（20%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。プリントを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

哲学

(9) オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。
進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
美術史（日本の美術に親しむ）	山盛 弥生	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

美術作品には、それらを生み出した人々、鑑賞してきた人々、それらを現在まで伝えてきた人々など、多くの人々の様々な思いやメッセージが込められている。それらを読み解き、意味を考えることは、美術作品に対する理解を深めるだけでなく、それらを生みだし伝えてきた、過去の社会や文化についての理解を身につけることにもつながっていく。

授業では、平安時代から江戸時代までの日本の代表的な美術作品を取りあげ、作品に関する基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現するもの（特徴、表現形式、デザインなど）について考え、その魅力を味わい、鑑賞する力を養うこと、また、美術作品が、それらを生み出し伝えてきた、時代や地域の歴史的・文化的な状況と密接に関わっていたことを理解することを目的とする。

(3) 到達目標

- ① 平安時代から江戸時代までの、日本美術の大きな流れを理解し、説明できるようにする。
- ② 各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的な特色を説明し、論じることができるようにする。
- ③ 各作品が生み出された文化的・社会的な要因について解説し、作品を鑑賞する際に、制作背景を説明することができるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、美術史を学ぶ意味、主な美術館・博物館
2	平安時代の美術Ⅰ	仏画
3	平安時代の美術Ⅱ	絵巻 源氏物語絵巻・鳥獣人物戯画
4	平安時代の美術Ⅲ	絵巻 信貴山縁起絵巻・伴大納言絵巻
5	平安・鎌倉時代の美術	平安時代の工芸・鎌倉時代の仏画
6	鎌倉・南北朝時代の美術Ⅰ	絵巻と神道美術
7	鎌倉・南北朝時代の美術Ⅱ	肖像画と水墨画
8	室町時代の美術Ⅰ	水墨画と狩野派 狩野正信・元信 雪舟・雪村
9	室町時代の美術Ⅱ	大和絵と工芸
10	桃山時代の美術	狩野派と障壁画 狩野永徳・長谷川等伯
11	桃山・江戸時代の美術Ⅰ	狩野派と大和絵 狩野探幽・住吉具慶・土佐光起
12	桃山・江戸時代の美術Ⅱ	琳派 俵屋宗達・本阿弥光悦・尾形光琳・酒井抱一・鈴木其一
13	桃山・江戸時代の美術Ⅲ	風俗画と浮世絵
14	江戸時代の美術Ⅰ	南画と写生画 池大雅・与謝蕪村・円山応挙
15	江戸時代の美術Ⅱ	奇想の画家 伊藤若冲・曾我蕭白

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業では、パワーポイントを使用して、多くの作品の画像を紹介する。拡大画像で作品の細部まで示し、作品の造形的な特徴を解説する。取り上げた作品の作品名、作家名等を記載した印刷物を毎回配付する。理解度を確認するため、授業内で小レポートを提出してもらい、翌週の授業内でフィードバックとして、小レポートの内容にコメントをする。授業で取り上げた作品について、大月短期大学図書館・大月市立図書館所蔵の美術全集等の大型図版を細部までよく見て、作品の造形的な特色を理解するようつとめること。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験に代わるレポート（40%）②授業内での小レポート（60%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示。プリント配布。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

質問等については、授業の前後や teams のチャットにて対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
世界史	早川 理穂	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

西洋史を中心として他地域との関係にも目配せしつつ、古代から現代に至るまでの世界史の大きな流れを理解できるようにする。また、歴史学の方法論についても学び、様々な歴史的事象の因果関係を意識して学ぶ目を養うと共に、一つの事象を多面的に見ることができるようにする。さらに現在世界で起きている出来事も、歴史の積み重ねの上に起こっているということを理解し、歴史を学ぶということは単に過去の出来事を学ぶだけでなく、現在の社会の成り立ちや出来事をより良く知るためであるという意識を持つようにする。

(3) 到達目標

教養としての世界史の知識を習得し、現在世界で起こっている出来事を、歴史的背景を学ぶことでより深く理解できるようになる。歴史学がどのような学問かを理解した上で歴史を学ぶ姿勢を身につける。歴史上の問題（例えば奴隷制度や戦争など）についての是非など、自分の意見を整理して伝えられるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、歴史学とは何か。
2	古代ギリシア世界	古代ギリシアの民主政と古典文化。
3	古代ローマ帝国	ローマ帝国の繁栄と衰退。
4	古代から中世へ	西ヨーロッパ世界の成立。
5	中世ヨーロッパとキリスト教	中世ヨーロッパ社会とキリスト教。
6	中世都市の成立とイスラム世界	中世都市がどのように誕生したか、イスラム世界の成り立ち。
7	近世ヨーロッパの形成	主権国家体制の成立
8	近世国家の統治	絶対王政の社会。
9	近代社会の確立	市民革命の時代。
10	自由主義と国民主義	19世紀ヨーロッパ社会の潮流。
11	帝国主義	列強による植民地支配への道。
12	第一次世界大戦	第一次世界大戦の原因と影響について。
13	戦間期の世界	第二次世界大戦へと至る過程。
14	第二次世界大戦	第二次世界大戦の原因と影響。
15	東西冷戦と総括	第二次世界大戦後の社会。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントの画像資料、配布プリントを参照しながら講義形式で進めていく。数回、リアクションペーパーを書いて提出してもらい、それに対する総評をコメントする。高校の世界史教科書程度の知識はあるものという前提で授業を進めて行くので、事前に世界史の教科書には目を通しておくこと。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）②リアクションペーパー（40%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『論点・西洋史学』	金澤周作（監修）	ミネルヴァ書房	3,520円
	『子どもたちに語るヨーロッパ史』	ジャック・ル・ゴフ、前田耕作・川崎万里訳	ちくま学芸文庫	1,210円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

質問などは授業の前後に受け付ける。

科目名	地球科学	教員名	尾崎 宏和	年次	2	授業期間	後期	単位	2
-----	------	-----	-------	----	---	------	----	----	---

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

地震、津波、火山、気象、地形形成のような、地球における諸活動を理解しようとするのが地球科学である。本授業は、これらと私たちの生活とのかかわりを理解すること、地球活動を知り地球のすばらしさを科学的に把握すること、これらによって防災や減災につなげることなどをめざす。

まず、日本列島が地球科学的に無縁ではられない地震に着目する。そして、日本列島の形成、大月市周辺における地球科学的トピック、天気と気象、災害と地球科学などについて理解を深める。さらに、気候変動や環境汚染など、今日深刻化が進む環境問題について扱う。受講生が各種資料を読み合わせしたり、受講生どうして議論したりする時間をもつ。時間が許せば校外の見学を行う。以上を通じ、私たちの生活や環境の維持と改善について地球科学的な観点を持ち、意見を持ち行動できるようにする。

(3) 到達目標

- ① 地球の構成員の一人として、地球活動および自然と自らの関わりを理解し、説明することができる。
- ② 自然災害に対して、地球科学的に予防策や対応策を考え、冷静な対応策を採ることできる。
- ③ 環境問題の改善および良好な自然環境の維持について、地球科学的な根拠をもって論じることができ、行動することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	地球科学とは、地球の活動	地球の活動、地球の誕生、地球の構造、世界遺産に見る地球科学
2	東日本大震災	東北地方太平洋沖地震、津波、原発事故
3	地球の大地形	地球の地形概観、プレートテクトニクス、地震、火山、断層、造山運動
4	日本列島	日本列島の形成、フォッサマグナ・中央構造線、地震、環太平洋火山帯
5	地域地形	河岸段丘、扇状地、氷河地形等
6	大月周辺の地球科学	富士山、八ヶ岳、岩殿山、上野原の河岸段丘
7	大月市郷土資料館、猿橋見学	(所要時間等の関係で、内容または日時を変更する可能性がある)
8	地球の歴史と注目イベント	地球史の概観、氷河期襲来、恐竜の絶滅、人新世
9	生命を育む海	生命の誕生、進化
10	気象と地球科学	四季の天気、天気図、観天望気、気象通報
11	災害と地球科学	地震、津波、火山、台風、干ばつ、ヒートアイランドと温暖化
12	気候変動、地球環境問題	地球温暖化、海洋循環、気候変動
13	鉱産資源と環境汚染	資源の形成、地球の元素組成、環境汚染問題
14	「地球科学と私たちの生活」	グループ発表準備
15	「地球科学と私たちの生活」	グループ発表

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

配布した資料を基に、パワーポイントや視聴覚メディアを使用して講義を行う。講義の中では、受講生に対して問いを出すので、気楽にして積極的に発言していただきたい。

最終回は、地球科学と私たちの生活のかかわりについて、グループでの議論にもとづき、発表を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（50%）、② 授業内の活動・課題（グループ発表）への貢献度（50%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内に指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

関連科目として生物学など。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、メールで適宜約束した日時とする。

授業は上記の予定とするが、スケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
生物学	尾崎 宏和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

約46億年前に地球が形成され、原始生命が誕生したのは約38億年前と考えられている。現在、170万種以上の生物が知られるが、未発見の種を含めると約870万種に及ぶと推定されている。一方宇宙においては、地球以外での生命の存在は、その可能性が言われるにとどまるのが現状である。地球という生命の惑星は、きわめて貴重な奇跡の存在だ。ところが現在、人為起源の有害な化学物質が多数生産され、地球環境問題の深刻化も進んでいる。本授業では、生命とは何か、前半では生物活動に関して私たちの生活実感の中でとらえ、後半では環境問題と生物に関して着目する。具体的には、前半では生物と生態系を中心に扱う。後半はレイチェル・カーソン「沈黙の春」を輪読し、意見交換や発表も含むアクティブラーニング形式の授業とする。以上を通じ、私達の生活や環境の維持と改善について生物学的な観点を持ち、意見を持ち行動できるようにする。

(3) 到達目標

- ① 生命のすばらしさ、大切さを感じ、生物やその生息環境への興味関心を高める。
- ② ヒトを含む生態系の観点から生命の基本、生物の活動を理解する。
- ③ 生物学的な観点にもとづいて、環境問題の改善および良好な自然環境の維持のための人の生き方を考え、行動することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	生命、生物、生物学とは	生命とは、生命の誕生、生物はなぜ死ななければならないのか
2	生命の進化と地球の歴史	生物の分類、生命の進化、地球の歴史
3	生命の場「生態系」(1)	生態系の構成要素、生物間相互作用、食物網
4	生命の場「生態系」(2)	生物の分布、植生・遷移、生物多様性・固有種・外来種、環境問題と生物、生物濃縮
5	生命の場「生態系」(3)	クマと人の共存の道は？「有害鳥獣」対策、SDGs
6	個体レベルの生物学	細胞、代謝、遺伝、人の健康
7	有害物質と生物	化学物質、人為起源有害化学物質、毒性作用機構、水俣病・イタイイタイ病、等
8	「沈黙の春」輪読(1)	「沈黙の春」の内容概観、第3章 死の霊薬、第4章 地表の水、地底の海
9	「沈黙の春」輪読(2)	第4章の続き、第5章 土壌の世界
10	「沈黙の春」輪読(3)	第6章 みどりの地表、第8章 そして鳥は鳴かず
11	「沈黙の春」輪読(4)	第12章 人間の代価
12	「沈黙の春」輪読(5)	第15章 自然は逆襲する
13	「沈黙の春」輪読(6)	第16章 迫り来る雪崩、第17章 べつの道
14	「SDGsの17目標と生物学の役割」	グループ発表準備
15	「SDGsの17目標と生物学の役割」	グループ発表

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

資料や書籍と、パワーポイントや視聴覚メディアを使用して講義を行う。生物学と私達の生活のかかわりについて、輪読、グループでの議論や発表を交え、主体的な学習を促していく。講義の中では、受講生に対して問いを出すので、気を楽にして積極的に発言していただきたい。

授業内容は上記の予定とするが、スケジュールの前後や若干の変更がありうる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（50%）、② 授業内の活動・課題（グループ発表）への貢献度（50%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	沈黙の春	レイチェル・カーソン 青樹築一 翻訳	新潮文庫	Amazonにて 中古 数百円
参考書	沈黙の春を読む	レイチェル・カーソン日本協会 (編集)	かがわ出版	Amazonにて 中古 数百円
参考書	その他、授業内に指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

関連科目として地球科学、文化人類学など。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、メールで適宜調整するなど適宜の日時で設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
数学（経済学のための数学）	上西 雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

数学は、経済学の根幹を支える重要な学問であり、この道具なくして現代の経済・社会を分析し語ることはできない。一方で、数学は理系のものであるとして経済を学ぶ学生に忌避されがちであるが、これは非常に勿体ない。数学を理解してこそ経済学を深く学ぶことができ、経済・社会の実態を解明し問題を解決する面白みにありつけるのだから。本講義は、その第一歩として経済学に関わる数学の入門的内容（おもに「関数」と「微分」について）を扱う。下記の授業計画は『改訂版 経済学で出る数学』を教科書として、高校の数Ⅰレベルの数学からスタートし大学初等レベルの微分までを学ぶものとなっている。経済学をより理解したい、編入学のために「ミクロ経済学」や「数学」が必要である、あるいは純粋に数学を頑張りたいと思う学生は積極的に履修を検討して欲しい。

(3) 到達目標

- ① 経済学を学ぶ上で必要とされる数学の入門的な内容を理解する。
- ② 講義内の演習問題をこなすことで、基本的かつ重要な数学の問題を解けるようする。
- ③ 数学の抽象的な考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力を高める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義方針と内容の案内
2	1次関数	関数と変数、1次関数、逆関数、1次関数を利用した市場均衡の理論
3	2次関数（1）	グラフの平行移動の公式、2次関数と平方完成
4	2次関数（2）、指数と対数（1）	平方完成とグラフの例、最大値と最小値、指数法則
5	指数と対数（2）	基本的な指数方程式、指数の連立方程式、対数の導入
6	指数と対数（3）	指数関数と対数関数のグラフ、対数法則、底の変換公式、対数方程式
7	極限、数列	極限の導入、ネイピア数、等比数列、等差数列、級数
8	1変数関数の微分（1）	微分の理解と導入、導関数の定義
9	1変数関数の微分（2）	n乗の微分、微分演算の線形性、合成関数の微分
10	1変数関数の微分（3）	積の微分、商の微分、指数・対数関数の微分
11	1変数関数の微分（4）	関数の増減と最大・最小、最大化・最小化問題
12	多変数関数の微分（1）	多変数関数について、偏導関数の定義
13	多変数関数の微分（2）	偏微分の計算例、チェインルール
14	多変数関数の微分（3）	制約条件なしの最適化問題
15	多変数関数の微分（4）、補足	制約条件ありの最適化問題（ラグランジュの未定乗数法）、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書の内容に沿って板書で解説・補足を行うので、ノートをとって欲しい。また、基本的に毎講義の最後に演習問題を解く。この演習の積み重ねにより、理解が深まることを期待する。なお、予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容を復習し同様の問題を解く練習を重ねて欲しい。復習用の練習問題も提供する予定である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『改訂版 経済学で出る数学』	尾山大輔・安田洋祐 編著	日本評論社	2,310円
参考書	『数研講座シリーズ 大学教養 微分積分の基礎』	市原一裕 著	数研出版	2,750円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を深く理解するための基礎的な数学を、本講義は提供する。また、統計学Ⅰ/Ⅱの一部内容やその発展的な内容（数理統計学）、計量経済学などとも関係しており、関連・応用分野は広い。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅰ（統計学によるデータの分析）	上西 雄太	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付ければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。前期は高校レベルの内容から始まり、記述統計の基本と確率変数・確率分布について学ぶ。「統計学Ⅱ」「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

(3) 到達目標

- ① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
- ③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	データの記述（1）	分布の中心を示す尺度
3	データの記述（2）	分布の散らばりを示す尺度
4	データの記述（3）	度数分布とヒストグラム
5	データの記述（4）	度数分布表からの統計量
6	確率（1）	確率の概念、場合の数に関する計算について
7	確率（2）	公理主義的な定義による確率、基本的な確率法則、独立
8	確率変数と確率分布（1）	確率変数の導入、離散型の確率変数の導入
9	確率変数と確率分布（2）	離散型の確率変数の期待値・分散・標準偏差
10	確率変数と確率分布（3）	連続型の確率変数と確率密度関数、連続型の確率変数の期待値・分散・標準偏差
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	確率変数の変換	標準化、偏差値化
13	正規分布（1）	正規分布の導入
14	正規分布（2）	標準正規分布、標準正規分布の確率表
15	正規分布（3）、まとめ	正規分布に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に演習問題を解き、内容への理解を深める。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。なお、演習用の練習問題は教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にある Excel による分析の手引きを模倣すれば実践的な研究・レポートで役立つスキルが身につくので、復習の一環としてそれにも取り組んでほしい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内外での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参考書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456 円
参考書	『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』	阿部真人 著	ソシム	2,750 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

後期の統計学Ⅱで、この講義の続きの内容を扱う。また経済統計学は、本講義を補足する内容が多く含まれているのでセットで履修することを勧める。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅱ（統計学によるデータの分析）	上西 雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付けければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。後期は「統計学Ⅰ」の続きの内容として、推測統計のコアである「信頼区間の推定」や「仮説検定」について主に学ぶ。「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

(3) 到達目標

- ① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
- ③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	統計学Ⅰの復習	確率変数、確率変数の変換、正規分布などの復習
3	中心極限定理（1）	2個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
4	中心極限定理（2）	n 個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
5	中心極限定理（3）	標本平均の分布、中心極限定理
6	信頼区間の推定（1）	点推定と区間推定について
7	信頼区間の推定（2）	中心極限定理による母平均の信頼区間の推定
8	信頼区間の推定（3）	信頼係数、信頼区間の推定の利用例、信頼区間の推定の条件と例外
9	信頼区間の推定（4）	t分布の導入、t分布表、Studentの定理
10	信頼区間の推定（5）	t分布と信頼区間の推定、利用例
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	仮説検定（1）	仮説検定の具体例、仮説検定の流れ、統計学的な仮説の立て方と扱い
13	仮説検定（2）	第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、有意水準、検定統計量
14	仮説検定（3）	棄却域、検定の実施と結論、利用例
15	仮説検定（4）、まとめ	仮説検定に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に演習問題を解き、内容への理解を深める。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。なお、演習用の練習問題は教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にあるExcelによる分析の手引きを模倣すれば実践的な研究・レポートで役立つスキルが身につくので、復習の一環としてそれにも取り組んでほしい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内外での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960円
参考書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456円
参考書	『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』	阿部真人 著	ソシム	2,750円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

統計学Ⅰの履修が必須となっている。計量経済学では回帰分析に関して深掘りを行うので、実証研究やデータサイエンス関係の職業に関心のある学生は是非履修して欲しい。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
心理学A(心理学で自分探し)	川島 洋	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

心理学は、「心の科学」としてマス・メディアなどでも頻繁に取り上げられ、どこか神秘的で占いのようなものと誤解されがちである。本講義では、とかく誤解されやすい心理学という学問の概要を正しく学び、科学としての心理学を理解する事を目標とする。そして、心への興味・関心・理解を深め、心理学的に自分や他者の行動を理解する力を養っていただきたい。

科学としての心理学を正しく理解するために、心理学の基本的な理論(知覚と認知・感情・欲求・学習)や、「意識と無意識」、「アイデンティティ」などといった、心理学の基礎的用語を学ぶと共に、心理学を「自分探し」の手掛かりとして正しく使用できるよう、心理学的なものの方・考え方(論理的思考能力・客観的分析能力)が出来るようになることを目指す。また、心理学の理論を応用した、「行動経済学」についても触れていく。

(3) 到達目標

- ①性格について学び、性格形成の要因について知り、自らの性格について客観視できるようにする。
- ②錯覚や思い込みからのミスなどを減らし、他者に対する先入観を無くして自分として正しい行動を選択することが出来るようにする。
- ③心の健康や社会的な行動の仕組みを科学的に学ぶことで、自分自身の心身のケアに役立てる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	大学で心理学を学ぶということ、心理学前史。
2	知覚と認知Ⅰ	こころの世界—知覚の特性と認知のプロセス。
3	知覚と認知Ⅱ	こころの世界—知覚の特性と認知のプロセス。行動経済学について。
4	感情と情動の心理Ⅰ	情動の発生と無意識的・意識的感情について。
5	感情と情動の心理Ⅱ	情動の発生と無意識的・意識的感情について。
6	感情と情動の心理Ⅲ	情動に関わる神経伝達物質とホルモン。
7	動機と欲求Ⅰ	生理的欲求と社会的欲求。
8	動機と欲求Ⅱ	生理的欲求と社会的欲求。
9	学習と記憶の心理	学習のメカニズム、記憶のメカニズム。
10	性格分析と自己理解Ⅰ	類型論と特性論、YG性格検査法の実習。
11	性格分析と自己理解Ⅱ	性格検査の種類と特徴、エゴグラム(交流分析)の実習。
12	性格分析と自己理解Ⅲ	血液型性格診断(類型論)の誤りと問題点。
13	ストレスと心の健康Ⅰ	うつ病の種類と症状。
14	ストレスと心の健康Ⅱ	うつ病の治療法。
15	ストレスと心の健康Ⅲ	不安障害について。

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「心」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験またはそれに変わるレポート(70%)、②毎回のコメント・授業での課題(30%)の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

心理学Aでは心理学の基礎を学ぶ、そのため心理学B、生涯発達論を学ぶ上での基礎ともなる。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である心理学B、生涯発達論を履修することを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ①質問や相談については、授業の前後、あるいはTeamsのチャット、メールにて随時対応する。
- ②授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
心理学B (常識を問い直す)	川島 洋	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

「心理学A」では主に個人の心理に焦点を当てたが、「心理学B」では、「社会心理学」とその応用分野に焦点を当て、他者の存在(1対1の対人関係、集団、社会・文化)が、我々のところ(思考・感情・行動)に対しどのような影響を与えているのかを学ぶ。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

社会心理学を理解するために、社会心理学の基礎的用語、概念などを学び、身近な対人関係や現代日本社会における社会・文化事象について、発達障害・セクシュアリティの問題(男女格差、性的マイノリティー…)などの事例を通して、社会的価値観あるいは社会規範としての「常識」と「非常識」についての分析・考察を行う。また、社会心理学の応用分野である「恋愛心理学」「色彩心理学」「広告心理学」などを取り上げ、我々が日常生活を送る上で心理学がどのような関わりを持つかについて理解する。

(3) 到達目標

- ① 普段「当たり前」と思っている現代日本社会における様々な偏見や常識について再考し、自分自身のこころの成長、あるいは他者や現代社会について見直す手がかりにする。
- ② 異文化や世代による価値観の違いを知り、多様な視点で物事を捉えられるようにする。
- ③ 各自の生と性(セクシュアリティ)を尊重し、生き方を模索できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容、方針などの紹介、社会心理学とは。
2	自己と社会心理	社会心理学の4つのレベル、私的自己意識と公的自己意識。
3	こころの理論	発達障害について(自閉症スペクトラム・ADHD)。
4	恋愛の心理学I	対人行動と社会心理、対人魅力の心理的要因。
5	恋愛の心理学II	対人魅力の心理的要因(相手の行動特徴)。
6	恋愛の心理学III	対人魅力の心理的要因(非言語的身体運動)。
7	恋愛の心理学IV	対人魅力の心理的要因(自己の特性)。
8	ユング心理学	ユングによる性格分類、夢分析とは。
9	ジェンダーと社会心理I	ジェンダーギャップ(男女格差)。
10	ジェンダーと社会心理II	音楽史とジェンダーギャップ。
11	ジェンダーと社会心理III	セクシュアリティの構造。性的マイノリティーについて。
12	文化と社会心理I	場の理論、社会化と具民性。
13	文化と社会心理II	個人主義と集団主義、日本人の価値観。
14	流行と社会心理	流行の特徴、色のイメージと心理効果。広告の心理学。
15	マイノリティーと差別	マイノリティーと差別を描いた映画を鑑賞し考察を行う。

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「社会心理」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験またはそれに変わるレポート(70%)、② 毎回のコメント・授業での課題(30%)の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	図説 社会心理学入門	齊藤 勇	誠信書房	3,024 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

心理学Bを学ぶ上で心理学Aはその基礎となる。また、生涯発達論は心理学Bと関連する。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である心理学A、生涯発達論を履修することを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ① 質問や相談については、授業の前後、あるいはTeamsのチャット、メールにて随時対応する。
- ② 授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
生涯発達論（発達心理学を学ぶ）	川島 洋	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

人間の心は生涯にわたって発達し続ける。その人間の心理的発達について、これまでの発達心理学の理論や考え方、研究成果などから学び理解する。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

発達心理学では、人間の心理的発達過程を「乳幼児期」、「児童期」、「青年期」、「成人期」、「老年期」といった世代ごとに区分し、発達を段階的に考える。本講義では、各発達段階における発達心理学としての考え方や発達課題について、現代日本社会における社会事象や社会問題（親子関係の問題・発達障害など）、あるいは映画・アニメなど「物語」を通して理解する。特に「青年期」については、ちょうど大学生にあたる時期であり、「自分は何者なのか」という問題（アイデンティティ）が発達課題となる時期である。現時点での自分自身の発達課題をより深く理解できるよう、青年期については特に多くの時間をかけていく。

(3) 到達目標

- ①人々が抱える心の問題について、性格や遺伝などその人が元々持っている内面的な要因と、環境など外的な要因の両面から考えることを学び、自分や他者を客観的に見ることができるようになる。
- ②各発達段階の課題を理解し、今何をしなければならぬのか、また、この先どのように生きてゆくのが望ましいのかを考える。
- ③発達心理学を学び、自己理解あるいは他者理解に役立てられるようになる。また、人生の意味、生き方などについて考える。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法などについての説明。発達心理学とは何か。
2	発達段階と発達課題	フロイト、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論。
3	乳幼児期の発達Ⅰ	母子関係の成立—アタッチメント(愛着理論)。
4	乳幼児期の発達Ⅱ	自我の芽生え、対人関係の発達。
5	児童期の発達Ⅰ	社会性の発達、大人との関係。
6	児童期の発達Ⅱ	「物語」から児童期の発達を考える。
7	青年期Ⅰ	青年期の発達課題。
8	青年期Ⅱ	青年期における変化。
9	青年期Ⅲ	「物語」から青年期の発達を考える。
10	青年期Ⅳ	アイデンティティの確立と拡散。
11	青年期Ⅴ	親密性(恋愛)の獲得。
12	成人期Ⅰ	成人期の発達課題。
13	成人期Ⅱ	親密性課題(結婚)、生殖性課題(育児)を考える。
14	成人期Ⅲ	「物語」から成人期の発達を考える(アイデンティティの問い直し)。
15	老年期の発達	死の受容、自分の生の受容。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に教員が話すだけではなく、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとしてコメントに対する解説・回答を行う。また、「心の発達」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映画など映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを自己理解・他者理解に活かしていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②毎回のコメント・授業での課題（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	こころの旅—発達心理学入門	山岸明子	新曜社	2,052 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

心理学 A は生涯発達論(発達心理学)の基礎であり、心理的 B は生涯発達論に関連する。発達心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である心理学 A、心理学 B を履修することを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ①質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
- ②授業進度および内容については、発達心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
法学A（日本国憲法を学ぶ）	山崎 恭代	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、国家の基本法であり、最高法規である日本国憲法について、解説を行う。

日本国憲法の成立過程に触れた上で、日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重主義、国民権主義、平和主義）、国家の統治機構の概要を学習する。日本国憲法の特徴を、大日本帝国憲法と比較しながら学習し、その成立の経緯を理解することによって、日本国憲法の問題点や今後の課題について、論ずることができるようにする。

憲法では、抽象的な概念が非常に多いことから、授業内容の理解を深めるために、授業のテーマと関連する具体的な時事問題があれば、適宜、取り上げて紹介する。

(3) 到達目標

- ①法を学ぶための基礎（条文の読み方、法の適用領域、法の理念など）を修得する。
- ②憲法についての基本的な知識を修得する。
- ③憲法の成立過程、基本的人権、統治機構に関する基礎的な知識を修得する。
- ④日本国憲法の今後の課題について、意見を述べるができるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	憲法の歴史と特徴	憲法の概要と大日本帝国憲法、日本国憲法の特徴を学ぶ
3	日本国憲法成立の経緯	大日本帝国憲法改正、日本国憲法成立の経緯を学ぶ
4	日本国憲法成立の法理	日本国憲法成立の法理論を学ぶ
5	国民権と象徴天皇制 (1)	国民権主義と象徴天皇制との関係について学ぶ
6	国民権と象徴天皇制 (2)	国民権の意義と日本国憲法における天皇の地位について学ぶ
7	平和主義	日本国憲法9条の構造を学ぶ
8	基本的人権 (1)	基本的人権の概要、公共の福祉の概念を学ぶ
9	基本的人権 (2)	思想・良心の自由、表現の自由について学ぶ
10	基本的人権 (3)	信教の自由、政教分離原則について学ぶ
11	基本的人権 (4)	経済的自由について学ぶ
12	統治機構 (1) 国会	権力分立、国会の組織、活動、権限を学ぶ
13	統治機構 (2) 内閣	内閣の組織、権能、行政権を学ぶ
14	統治機構 (3) 裁判所	裁判所の種類、構成、司法権を学ぶ
15	地方自治	地方公共団体の組織、運営について学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配布した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を2～3問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	ピンポイント憲法	デイリー法学選書編修委員会 [編]	三省堂	1,760円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
法学B（法律を使う・なれる）	山崎 恭代	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、民事訴訟法と刑法について、解説を行う。

現代においては、権利意識が向上したことと、情報化社会であることにより、私人間での紛争が増加傾向にある。紛争当事者間での話し合いで、紛争が解決できなければ、民事訴訟を起すことによって、裁判で解決しなければならないことになるが、その時の訴訟手続について定めた法律が民事訴訟法である。そこで、民事訴訟の基礎的知識を修得し、民事訴訟の一連の流れを概観する。また、重大な刑事事件について、裁判員裁判が行われていることから、犯罪の成立要件を学習した上で、裁判員裁判制度の解説を行う。

手続法である民事訴訟法の理解を深めるために、授業のテーマと関連する具体的な時事問題があれば、適宜、取り上げて紹介する。

(3) 到達目標

- ①紛争を解決するための方法を修得する。
- ②訴訟手続に関する基本的な知識を修得する。
- ③訴訟を起された場合に対応することができる。
- ④裁判員に選ばれた場合に裁判員裁判に参加できるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	民事訴訟法 (1)	民事訴訟の特徴を、刑事訴訟との比較において学ぶ
3	民事訴訟法 (2)	民事訴訟に関する原則（処分権主義、職権主義など）を学ぶ
4	民事訴訟法 (3)	訴えの提起、訴えの種類を学ぶ
5	民事訴訟法 (4)	口頭弁論の諸原則を学ぶ
6	民事訴訟法 (5)	証拠と証明について学ぶ
7	民事訴訟法 (6)	訴訟の終了について学ぶ
8	民事訴訟法 (7)	判決の種類、判決の効力を学ぶ
9	民事訴訟法 (8)	上訴（控訴、上告）について学ぶ
10	民事訴訟法 (9)	判決以外の裁判（決定、命令）を学ぶ
11	民事訴訟法 (10)	具体的な事例を取り上げて解説を行う
12	刑法 (1)	刑法の機能、罪刑法定主義を学ぶ
13	刑法 (2)	犯罪の成立要件（構成要件該当性）を学ぶ
14	刑法 (3)	犯罪の成立要件（違法性、有責性）を学ぶ
15	刑法 (4)	裁判員裁判を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配布した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を 2～3 問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説したことを、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
文化人類学（世界の民族と異文化研究）	山内 健太郎	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

文化人類学の理論を紹介し、世界の民族と異文化について学習する。人類学理論の主な内容は、文化相対主義、機能主義、伝播論、構造主義などである。これらの理論と共に、文化における理解やその課題について講義する。また、講義内容に沿った映像を用いてより理解を深める。映像ではバブアニューギニア、南米アマゾン密林地帯の先住民族、中国ナシ族、日本などの生活を紹介する。文化人類学の理論と映像から「異文化とは何か」、「民族問題」、「多文化共生」などのテーマや、フィールドワークの事例をあげながら文化人類学からみた現代を学ぶ。

上記を通じて、文化人類学の基礎理論を学習し、文化人類学的な視座の獲得を目的とする。

(3) 到達目標

- ①文化摩擦の課題を学び思考する方法を習得する。
- ②文化人類学の古典から現在までの理論を学び、異文化理解について論じることができる。
- ③文化人類学的な視座を習得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	「当たり前」ってなんだろう？の学問
2	文化とは何か	文化の定義と議論について
3	文化人類学理論①	フィールドワークとトロブリアント諸島
4	家族と親族	わたしたちの家族を結ぶものは何か
5	文化人類学理論②	トロブリアント諸島の芋と家族
6	文化人類学理論③	「未開社会」の幻想（機能主義Ⅰ）
7	文化人類学理論④	クラ交換（機能主義Ⅱ）
8	文化人類学理論⑤	贈与と互酬性
9	イゾラド	南米アマゾン密林地帯の先住民族
10	文化人類学理論⑥	文化はどのように伝わるのか（伝播論Ⅰ）
11	文化人類学理論⑦	芋はどこから伝わったのか（伝播論Ⅱ）
12	文化人類学理論⑧	日本の地域性
13	文化人類学理論⑨	構造主義について
14	儀礼について	通過儀礼とは何か
15	まとめ	講義まとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式によって進めていく（パワーポイントの併用）。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。上記の配布資料以外に、コメントシートを配布し、回収後に解説やコメントをすることで受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに代わるレポート(70%)、②授業への意欲的参加（30%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	必要に応じて示す			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

質問や相談等は授業後や Teams にて受け付ける。また、本講義はコメントシートに寄せられた内容を可能な限り講義で紹介する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域文化遺産論（地域と文化遺産）◆	稲垣 自由	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

文化遺産とは、地域の歴史や文化の中でつくり、地域住民によって現在まで保存・継承されてきたものである。これらを法や条例によって保護していくのが文化財の指定・登録制度であるが、近年では文化遺産を保存するだけでなく、観光やまちづくりの中で位置づけ、活用することも求められている。また、文化財として固定した学術的・芸術的な価値基準のみならず、地域住民がどのような点に価値を見出して文化遺産を捉えているのか把握することは保存・活用を図るうえで重要な視点となる。

本講義では、講義形式の授業で文化遺産について学習することに加え、大月市の文化遺産を中心に画像・映像を用いて紹介する。そして文化遺産の保護に関する政策と文化遺産のもつ多様な価値について理解し、地域の情報を読み解く資料として文化遺産を捉えることができる視座の修得を目指す。

(3) 到達目標

- ①文化遺産について知り、その保護制度について説明することができる。
- ②文化遺産の多様な価値を理解し、自身の身の回りのものに置き換えて考察することができる。
- ③文化遺産を地域の情報を読み解く資料とする視座を修得し、他分野にも応用することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	文化遺産とは	文化とは何か、遺産とは何か
2	文化遺産を保護する制度①	文化財保護法について
3	文化遺産を保護する制度②	ユネスコと世界遺産について
4	文化遺産を保護する制度③	大月市文化財保護条例と文化財保護について
5	大月市の文化財①	重要文化財 星野家住宅
6	大月市の文化財②	県指定無形民俗文化財 追分の人形芝居
7	大月市の文化財③	名勝猿橋
8	埋蔵文化財	埋蔵文化財と発掘調査
9	文化遺産の多様な価値①	文化財活用概念の変化と政策
10	文化遺産の多様な価値②	本質的な価値とは何か、様々な視点について
11	文化遺産の多様な価値③	大月桃太郎伝説の分析
12	文化遺産の多様な価値④	文化遺産を活用した地域活動について
13	文化遺産の多様な価値⑤	文化遺産の教育活用と観光活用について
14	文化遺産の保存・継承における課題	文化財保護法改正と文化財保存活用地域計画について
15	まとめ	これまでの総括と今日的な論点

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で授業を進めていくが、各自の考えや疑問点を共有し、教員と共に考える時間（具体的には終了後のコメントカード提出とそれに対するリアクションをする）を毎回設定する。このためコメントカードには1~2行の簡潔なものや質問の羅列ではなく、多くの記述を求める。授業はレジュメを配付し、パワーポイントを使って画像や映像資料を利用しながら進め、文化遺産について具体的なイメージを持てるようにする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①学期末にレポートを提出する（60%）、②コメントカードへの記入内容や授業貢献度（40%）の合計点数によって評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。プリント配布。			
参考書	授業内指示。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月市の文化遺産を中心に取り上げるため、大月学入門を履修し大月市の情報を知っているとより理解が深まる。

(9) オフィスアワー・その他

特になし。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学入門C1 (経済学の基本的問題)	范立君	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準 (ディプロマポリシー) との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している (導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している (専門的な知識の修得)。

(2) 授業概要と目的

本講義は経済学の歴史と経済思想を重視しながら、経済学がどのような問題を取り上げ、どのようにその問題の解決に取り組んでいるのかを説明する。さらに、そのような問題への扱い方や解決の仕方によっては、経済学のいくつかの主要な分類を入門レベル的に紹介する。本講義は主に以下の3つの内容から成る。

- 第1 経済学は主にどのような問題を取り上げるか
- 第2 マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎知識
- 第3 社会経済学の基礎知識

(3) 到達目標

- ① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつける。
- ② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や考え方を知ること。
- ③ 経済関連のニュースを読んで、聞いて、ある程度関心を持つこと。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	経済学入門C1で何を学ぶか
2	学問と人類の歴史	すべての学問は人類の歴史の中で創出されている
3	経済と社会	『ロビンソン・クルーソー』と経済の意味、社会のとらえ方
4	経済学の歴史①	古典派経済学 (重商主義と重農主義)
5	経済学の歴史②	新古典派経済学、ケインズ経済学、政治経済学 (マルクス経済学)
6	経済学の歴史③	発展段階論
7	交換と市場の問題①	市場とはなにか? (動画資料視聴)
8	交換と市場の問題②	市場の力と政府の役割
9	需要と供給の問題①	価格と価値、付加価値の高い商品とはなにか?
10	需要と供給の問題②	需要曲線と供給曲線 (動画資料視聴)
11	資本の問題①	資本とはなにか? 原始共同社会から資本主義社会まで、社会主義社会は?
12	資本の問題②	資本のグローバル的な展開
13	労働の問題	労働と労働力の違い、労働の疎外問題
14	国民所得とその分配の問題①	GDP と GNP の違い
15	国民所得とその分配の問題②	所得分配とは、幸福の源泉

(5) 授業の進め方と方法 (授業時間外の学習)

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験 (70%)、② ひと言カードへの感想・疑問への記入 (30%) の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	図解 社会経済学	大谷禎之介	櫻井書店	3,300円
	入門経済学 第4版	伊藤元重	日本評論社	3,300円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目 (他の科目との前後のつながり)

社会経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、基礎経済学など、「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

水曜日 (11:30~12:30) ※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学入門C2（経済学は役に立つのか?）	伊藤 誠一郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

18世紀末にアダム・スミスによって作り出された経済学も、20世紀末あたりになると、マルクスやケインズがつくった経済図式もゆきづまりをみせ、経済学そのものへの信頼が失われてきた。ソビエト型社会主義が崩壊したあと、一見信頼を取り戻したかのように見えた徹底した自由主義経済も、2008年の世界金融危機によって行き詰まりを露呈し、コロナ禍とそのただ中から始まった複数の戦争と際限のないインフレの中で人々は途方に暮れるだけである。しかし、こうした事態を逆から見ると、いまこそ経済に、そしてそれを理解する方法である経済学に、どのような問題があったのか考える絶好の機会ともいえる。実際、さまざまな問題に突き当たって、政策的にも、理論的にもさまざまな解決策が次々と示されてきている。本講義では、諸個人の倫理という視点から、あらためて経済学がなにをどのように解決できるのかを探っていきたい。

(3) 到達目標

- ① 経済学的な思考方法を身につける。
- ② 経済学の基本用語や基本的な知識を身につける。
- ③ 経済学の前提となる、社会全体に対する視点についても考える。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	生きるとは	働くこと、遊ぶこと
2	働きすぎ(1)	労働は楽になっているのか
3	働きすぎ(2)	働いているのか、働かされているのか
4	資本主義のはじまり	資本主義の歴史はたかだか200年
5	資本主義のメリット	自由競争のメリット
6	資本主義のメカニズム	需要と供給
7	労働(1)	労働という商品
8	労働(2)	失業
9	雇用政策とケインズ	ケインズ政策
10	貨幣市場	カジノ資本主義
11	豊かさとはなにか	バブル経済の中身
12	豊かさをもとめて	住みやすい社会
13	環境と経済	環境問題は環境だけの問題ではない
14	生活と経済	新しいライフ・スタイルを求めて
15	経済と歴史	歴史から見た経済、経済学の歴史

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、毎回の授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題（100%）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学入門C3(経済及び経済学への導入)	内藤 敦之	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。

(2) 授業概要と目的

経済というのはどういう現象であるのか。この講義では経済学への導入を目的とするが、まず、最も基本的な点に重点を置いて展開していく。経済現象は、必ずしも、あまり意識されることはないが、日常生活において重要な役割を果たしている。例えば、景気や物価であるとか、失業や給料の水準といった労働の問題等々がある。こういった問題を簡潔に説明するだけでなく、関連する理論も紹介しながら、経済現象及び経済学がどのようなものであるかを学ぶことを目標としたい。このため、様々な経済トピックを紹介しつつ、経済理論および、他の講義での内容への導入となるように構成していく。

(3) 到達目標

- ① 経済現象及び、経済学への関心を高めること。
- ② 初歩的な経済理論を学んだ上で、簡潔な分析ができること。
- ③ 経済において、特に日本経済における重要なトピックを知った上で、簡潔な分析ができること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	日本経済の概観	日本経済における重要なトピック
3	所得①	GDPとは何か、国民所得
4	所得②	三面等価の原則、GDPの意味
5	様々な経済学①	経済学の歴史と様々な経済学
6	様々な経済学②	古典派、新古典派、ケインズ
7	マクロ経済学①	有効需要の原理
8	マクロ経済学②	マクロ経済政策
9	ミクロ経済学①	需要と供給
10	ミクロ経済学②	需要曲線と供給曲線による分析
11	政府と財政	政府の役割と財政の問題
12	金融	貨幣とは何か、銀行の役割
13	労働と社会保障	失業、賃金、年金
14	グローバルな経済	貿易と国際金融、グローバリゼーション
15	日本経済の課題	長期不況、少子高齢化

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teamsにより、毎回、課題を課す。講義資料はTeams上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

経済データの読み方、基礎経済学。
その他、経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問はTeamsのチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
公共政策入門C1（現代日本の公共政策）	澁谷 朋樹	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義は、公共政策の意義をふまえつつ、政策形成に必要な視点と方法を中心に学ぶ。公共政策とは、社会が直面する課題に対し、解決に向けた方策を提示し実行していくための取り組みである。現代日本では、財政赤字への対応、社会保障制度の持続可能性、地域間の経済格差など解決しなければならない課題が数多く存在する。また、少子高齢化が進んでいる中で、どのように現状を把握していくのか、課題を検討していくのかを考えることは重要である。そこで、現代日本の政策問題を発見・分析するために必要な視点を、国や地域の具体的な事例を交えながら学んでいく。

本講義を通じて、現代日本が抱える諸問題を明らかにし、政策課題を解決するための提言を行うことができる基礎的な力を身につけることが目標となる。あわせて、提言の妥当性を検討するために必要となる各種データの基本的な活用方法についても習得する。

(3) 到達目標

- ①公共政策の実態について基礎的な知識を理解することができる。
- ②政策づくりの視点を理解した上で、政策課題を発見することができる。
- ③収集した各種データを利活用し、持続可能な社会づくりのための政策提言を行うことができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の計画と各テーマについて
2	公共政策とは何か①	福祉国家と公共政策の発展、公共政策学の誕生とその特徴
3	公共政策とは何か②	政策づくりの視点、政策サイクル・PDCAサイクル
4	国と地方自治体①	「中央集権」と「地方分権」、日本における政府間関係
5	国と地方自治体②	日本の予算・決算制度、政府間財政関係
6	国と地方自治体③	地方自治体の役割、地方財政の現状
7	現代日本と政策問題①	少子高齢化の進展と人口減少社会
8	現代日本と政策問題②	社会保障をめぐる諸問題
9	現代日本と政策問題③	地域間格差と過疎地域
10	公共政策と地域①	富山県富山市の事例
11	公共政策と地域②	岩手県紫波町の事例
12	公共政策と地域③	長崎県大村市の事例
13	公共政策と地域④	新潟県柏崎市の事例
14	持続可能な社会と公共政策	持続可能な地域の発展と公共政策のあり方
15	まとめ	講義のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で進める（板書とパワーポイントを併用）。受講生の理解を深めるため、配布資料や視聴覚メディア等の各種教材を適宜活用する。また、コメントペーパー等を用いて意見や疑問を共有し、双方向性を高める工夫を行う。なお、講義では時事的な問題も積極的に取り上げる予定である。そのため、受講生は日頃から各種メディアの報道に触れ、現代の政策課題に関する情報を継続的に把握しておくことが望ましい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①期末レポート（70%）、②コメントペーパー（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。資料を配付する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域経済論、地方自治論、地方財政論など「公共政策分野」の主要科目の履修を勧める

(9) オフィスアワー・その他

担当科目に関連する質問や相談は、基本的に講義の前後に受け付けます。また、本講義は上記の内容で進めていく予定ですが、コメントペーパーに寄せられた意見を講義に反映させていきます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
公共政策入門 C3 (公共空間における諸問題と政策課題) ◆	榎平 龍宏	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。

(2) 授業概要と目的

本講義では、公共政策の重要な概念である「社会的共通資本」に注目しながら、地域経済問題ならびに環境問題や少子・高齢化問題などのさまざまな社会的課題と公共政策との関わりについての基礎的な知識を習得することを目的とする。持続可能な地域社会の構築に適切な公共政策や地域政策のあり方についても考えてみたい。

本講義は、主に公共政策の企画立案に必要な能力を養うための基盤づくりをするものである。地方自治の重要性に注目が集まっている中で、地方自治体にも政策形成能力が求められている。どのように地域の現状を把握するのか、政策的課題を検討するかを考えることは重要である。そこで、地域を観察・分析するために必要な視点を、具体的な事例を学ぶことにより身につけていく。

(3) 到達目標

- ①地域社会を「公(政府)・共(コミュニティ)・私(市場)」という3つの側面から捉え、そのバランスある発展を進めるためにはいかなる政策が必要か、ということ、地域の抱える課題に即して考え、自分の意見を述べるようになる。
- ②政策づくりの視点を理解した上で、その地域の課題を明らかにすることができる。
- ③収集した各種データを利活用できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	本講義の内容と目的
2	グローバル化と地域経済①	グローバル化する社会と地域コミュニティ
3	グローバル化と地域経済②	経済社会システムの進化プロセスと定常化社会への展望
4	我が国の地域政策の歴史①	「全国総合開発計画」の展開と地域経済の変貌
5	我が国の地域政策の歴史②	「外来型地域開発政策」の功罪
6	地域経済再生の新戦略①	「内発的発展」に基づく人間と地域の再生
7	地域経済再生の新戦略②	国内・海外における持続可能な発展に向けた地域戦略の事例
8	持続可能な地域社会へ向けた政策課題	持続可能な経済・社会へ向けた地域政策の課題と展望
9	政策とは何か	「政策」と「政策科学」、政策づくりの視点
10	地域政策と公共	政策サイクル、政策評価・行政評価
11	地域を捉える視点	過疎地域の諸問題、「関係人口」とは何か
12	まちづくり事例①	富山県富山市の事例
13	まちづくり事例②	北海道猿払村の事例
14	まちづくり事例③	岩手県紫波町の事例
15	まちづくり事例④	島根県海士町の事例

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義形式によって進めていく(板書とパワーポイントの併用)。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。また、コメントペーパー等を活用して、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを自ら記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験またはそれに代わるレポート(80%)、②授業へのリアクション・ペーパー(「ひとことカード」)の内容(20%)の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジユメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

地域経済論、地方自治論、地方財政論、農業経済学、環境経済学など「公共政策分野主要科目」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

原則として上記の内容及びスケジュールに従い講義を行うが、理解度や時事的な問題を取り扱うことによる内容やスケジュールの前後・変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経営学入門（企業の基礎を学ぶ）◆	C1：上笹 恵、C2：矢賀部 裕	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業では企業組織を運営するための基礎的な理論を学ぶ。企業にとって、変化の激しい経営環境に適応しながら存続・成長することは重要な経営課題であり、そのためには一定水準の利益を確保しなければならない。利益の確保に向けて、たとえば中長期的な視点に立った経営戦略を立案し、計画的で柔軟な組織づくりを進め、また従業員を育成・管理するなど、多様な要素を考慮する必要がある。

経営学は、企業が一連の事業活動を継続する際により多くの成果を獲得するための道筋を示す学問である。科学としての経営学を最大限に活用すれば、事業の成功確率を高めることができる。本授業は一連の経営学講義の出発点として、この分野を網羅的・体系的に理解することに重点をおく。初歩的理論を学習しながら、時事ニュース等で具体的な理論の定着も図る。

(3) 到達目標

- ① 経営学の基礎を体系的・理論的に学習しながら、経営に興味を持ち、TVニュースや新聞から企業行動の目的や意図が理解できるようになる。
- ② 企業や経営の仕組みを理解することで、将来組織で働く際の意識を持つことができる。
- ③ 経営分野を志す場合、卒業レポートのテーマ案や問題意識を設定することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	経営学の定義と対象、授業の全体像の把握
2	経営の基本要素をおさえる	経営資源、経営機能、マネジメント、PDCA サイクル
3	経営組織をつくる	組織とは何か、組織形態（機能別組織、事業部制組織、プロジェクト組織など）
4	従業員を管理する①	雇用管理（採用、異動、退職）、人事評価、賃金管理、能力開発、働き方改革
5	従業員を管理する②	リーダーシップ、モチベーション、職場の人間関係
6	経営戦略を立てる	経営理念、経営環境分析、成長の戦略、競争の戦略
7	マーケティングを考える	セグメント、ターゲット顧客、マーケティング・ミックス（4つのP）
8	企業の力を測る（会計）	財務諸表（貸借対照表、損益計算書等）の読み方、経営指標の算出と評価
9	資金を管理する（財務）	会計と財務の違い、資金調達（間接金融、直接金融等）、投資評価
10	情報を管理する（経営情報）	情報システム、デジタル経営、セキュリティ、イノベーション
11	企業システムを統治する①	会社法と株式会社、株主総会・取締役・監査役
12	企業システムを統治する②	株式公開制度、コーポレートガバナンス、法令順守
13	事例研究①	企業経営の成功要因（組織、人的資源、リーダーシップ）
14	事例研究②	企業経営の成功要因（戦略、マーケティング、デジタル、企業統治）
15	経営学の課題	卒業レポート執筆にみる経営学、経営学の今日的な論点

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- C1：重要な項目はすべて板書する。授業内容を復習する際には、理解した内容を文章で表現する訓練を継続すること。
C2：必要な項目はパワーポイントの場合強調して表現する。授業内容を復習する際は、経営者もしくは社会人になったつもりで再考してみるとよい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①期末テスト（80%） ②コメントペーパーの内容や質疑応答に関わる等の授業貢献度（20%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「経営学」の基礎となる。履修・単位修得後は、人的資源管理論や経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などの科目履修を薦める。

(9) オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。シラバスは進捗状況によって変更する場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会文化入門C2（社会文化学への招待）	松岡 昌和	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

社会文化学は、社会を文化という視点で読み解いていく、学際的な領域である。この講義では、文化研究をベースに、本コースで提供する歴史研究、社会学、国際関係論など、他の領域へとつなげていく。文化研究は、広く文化についての考察を行うものであり、大衆文化やサブカルチャーあるいは社会や集団で共有された行動様式や思考様式も含めた広い意味での「文化」までを扱う。そして、人びとの日常に入り込んだ文化が人種、ジェンダー、階級、植民地主義、国際関係とどのように関係しているのか、そしてそれが人びとの認識にどのような影響を及ぼしているかを問い、わたしたちの生活や行動の意味を探究していくものである。本講義は社会文化学の入り口として、いくつかのトピックを概観していきたい。

(3) 到達目標

- ① 社会文化学の基本的な論点について理解する。
- ② わたしたちの日常の思考や行動について、理論的に考察することができる。
- ③ 自身の問題関心を言語化して説明することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	文化とはなにか	生活文化、大衆文化、サブカルチャー
2	文化研究の方法	社会と文化へのアプローチの方法
3	大衆社会とメディア 1	大衆メディアとファシズム
4	大衆社会とメディア 2	メディアとサブカルチャー
5	歴史と国際関係 1	近代世界システムとグローバルな経済格差
6	歴史と国際関係 2	国民国家とナショナリズム
7	歴史と国際関係 3	語られない歴史を語る
8	歴史と国際関係 4	歴史修正主義と陰謀論
9	表象文化 1	オリエンタリズムと芸術
10	表象文化 2	オリエンタリズムと日本
11	表象文化 3	戦争と大衆文化
12	ジェンダー1	ジェンダーの歴史
13	ジェンダー2	フェミニズム
14	ジェンダー3	多様なジェンダー
15	まとめ	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。必要に応じて文献や資料の講読を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 100%

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	なし（資料を配布）			
参考書	『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』	稲垣健志編	北樹出版	2,530 円
	『ふれる社会学』	ケイン樹里安・上原健太郎編著	北樹出版	1,980 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化分野各科目、世界史、ジェンダー論

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済データの読み方（経済データからの経済入門）	内藤 敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

経済データは、経済理論や経済政策において、基礎となっている。すなわち、経済データを元に理論や政策は成り立っている。そこで、この講義では、基本的な経済データの内容と読み方を学習する。さらに、経済データから現実の経済の動きを読み取り、関連する理論についても簡潔に学んでいく。講義ではトピック毎に、日本経済の現状を簡潔に説明した上で、関連する理論を紹介し、講義の後半では、実際の経済データを取り上げ、その読み方とデータについて検討していく。経済および経済学に関する多少の知識があることを前提として講義を行い、また、経済学の様々な分野への入門という点を重視したい。

(3) 到達目標

- ① 日本経済に関する経済データを通じて、経済的な現象への関心を持つこと。
- ② 様々なトピック毎に基本的な知識を身につけて、トピックへの関心を高めること。
- ③ 経済データの読み方を学習した上で、自分で経済データに基づいて簡潔な分析を行うことができること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	所得1	GDP とは何か、国民所得
3	所得2	国民経済計算の概要、GDP の意味
4	景気	景気循環、景気動向指数、景気の分析
5	財政	政府の予算、国債、地方財政
6	金融1	金利、金融政策
7	金融2	マネーサプライ、資金循環統計、株価
8	消費と貯蓄	個人消費、貯蓄、消費動向
9	生産と産業構造1	産業構造、鉱工業生産
10	生産と産業構造2	法人企業統計、設備投資、中小企業
11	雇用、人口、社会保障	失業率、賃金、労働時間、年金、人口の推移
12	物価	物価指数、インフレーションとデフレーション、地価
13	貿易と国際金融	国際収支、貿易収支、外国為替、外貨準備
14	食料、農業、環境	食糧自給率、環境統計
15	経済データの探し方	統計サイトの見方、データの取り扱い、表・グラフの作成方法

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回の講義の後半においては配布した実際の統計資料の解説を行う。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習しておくことを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	『経済データの読み方 新版』	鈴木正俊	岩波書店	902 円
参考書	『経済指標はこう読む』	永濱利廣著	平凡社	902 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門

その他、多くの経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
基礎経済学（経済理論入門）	内藤 敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

経済学は、様々な分野から構成されているが、最も基本的な部分は経済理論である。この講義では、基本的な経済理論を学習する。具体的には、ある国全体の経済のあり方を分析するマクロ経済学と、個人の立場から経済の具体的な仕組みを考察していくミクロ経済学の二つに分けて、学習する。ミクロ経済学では、最も重要な需要と供給の概念を中心に価格が市場においてどのように決まるのかを検討する。マクロ経済学では、一国の経済の規模を表す GDP がどのように決定されるかを示す国民所得の決定理論を中心に講義を行う。経済学には、数式は欠かせないものであるが、この講義では、むしろ、数式だけではなく、理論の基本的な考え方を必ずしも、数式に頼らず、説明する。

(3) 到達目標

- ① 基本的な経済理論の習得、特にその基本的な考え方を学ぶこと。
- ② 基本的な経済理論によって、現実の経済を理解した上で、簡潔な分析ができること。
- ③ マクロ経済政策の基本を理解した上で、簡潔な分析が出来ること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	ミクロ経済学とは何か	ミクロ経済学の概要、基本的な概念、需要と供給による分析
3	需要曲線	需要曲線とは何か、弾力性分析、需要曲線のシフト
4	消費者の行動	需要と効用、需要曲線の傾き、需要と収入
5	供給曲線	供給曲線とは何か、生産と費用、供給曲線のシフト
6	余剰	余剰とは何か、余剰分析
7	市場の均衡	市場における均衡、均衡とは何か、完全競争の意味
8	マクロ経済学とは何か	マクロ経済学の概要、基本的な概念、マクロ的な経済循環
9	国民経済計算	国民経済計算、フローとストック、三面等価の原則
10	国民所得	GDP と GNP、GDP の意味、IS バランス
11	基礎的な分析	総需要と総供給、有効需要の原理とセイ法則
12	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
13	国民所得の決定理論	45 度線分析、国民所得の決定、乗数分析
14	計算問題の演習 1	ミクロ経済学の計算問題
15	計算問題の演習 2	マクロ経済学の計算問題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『入門経済学 第4版』	伊藤元重	日本評論社	3,300 円
参考書	『入門マクロ経済学 第6版』	中谷巖	日本評論社	3,080 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、マクロ経済学 A・B、ミクロ経済学 A・B。
 その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学AC1(国民所得の決定理論とIS/LM分析)	内藤 敦之	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる(「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

この講義では、マクロ経済学の基礎概念と標準的な理論の学習を目的とする。マクロ経済学は、ある国全体の経済のあり方を分析するものである。この講義では、特に国民所得の決定理論としてのマクロ経済学を中心に扱う。第一に、マクロ経済学の基礎的な概念を重視する。第二に、基本的なマクロ経済学を学習する。第三に、国民所得分析において無視されがちな貨幣及び金融的側面を重視する。第四に、実際の経済現象との関わりを重視する。内容は基礎的な概念から、IS/LM分析までを学ぶ。また、理論だけでなく、実際の経済現象との関係についても、特に政策面を重視したい。さらに高度な内容は後期に開講されるマクロ経済学Bで取り扱う。なお、基礎経済学をすでに履修していることが望ましいが、未履修者にも配慮してマクロ経済学の基本的な概念から説明を行う。

(3) 到達目標

- ① マクロ経済学の標準的な理論を習得すること。
- ② 日本経済をはじめとするマクロ経済の概要を理解した上で、簡潔な分析ができること。
- ③ マクロ経済政策の概要について理解した上で、簡潔な分析が出来ること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	基礎的な概念	マクロ的な経済循環、マクロとミクロ、フローとストック
3	国民経済計算	GDPとGNP、国民経済計算とは何か、三面等価の原則
4	国民所得	ISバランス、GDPの意味
5	基礎的な分析	総需要曲線と総供給曲線、有効需要の原理とセイ法則
6	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
7	国民所得の決定理論	45度線分析、乗数分析、ビルトインスタビライザー
8	貨幣とは何か	貨幣の機能、ストック市場のワルラス法則、貨幣需要
9	貨幣供給	貨幣の定義、金融政策、貨幣乗数
10	IS/LMモデル	IS曲線、LM曲線、同時均衡
11	政策の効果	財政金融政策の効果、クラウディングアウト、流動性の罫
12	国際収支と為替相場制度	国際収支、為替相場制度
13	国際マクロモデル	マンデル=フレミングモデル
14	国際マクロにおける政策	金融財政政策の効果と為替相場制度
15	計算問題の演習	マクロ経済学の計算問題の演習

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teamsにより、毎回、課題を課す。講義資料はTeams上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『入門マクロ経済学 第6版』	中谷巖	日本評論社	3,080円
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

経済学入門、経済データの読み方、基礎経済学、マクロ経済学B、ミクロ経済学A・B
 その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問はTeamsのチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学B(総需要・総供給分析と経済の動態)	内藤 敦之	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる(「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

この講義では、マクロ経済学Aに引き続いて、マクロ経済学の基礎概念と標準的な理論の学習を目的とする。特に、国民所得の決定理論としてのマクロ経済学を中心に取り扱う。第一に、マクロ経済学の基礎的な概念を重視する。第二に、基本的なマクロ経済学を学習する。第三に、国民所得分析において無視されがちな貨幣及び金融的側面を重視する。第四に、実際の経済現象との関わりを重視する。内容は総需要・総供給分析だけでなく、経済の動態、すなわち、物価変動の分析や経済成長論までを学ぶ。理論だけでなく、実際の経済現象との関係についても、特に政策面を重視したい。また、マクロ経済学Aを履修していることを前提として、講義を行うため、未履修者はその範囲を独習することが望ましい。

(3) 到達目標

- ① 標準的なマクロ経済学を習得すること。
- ② マクロ経済のあり方について理解を深め、現実のマクロ経済政策等において、何が問題であるかを分析しうる知識及び能力を習得すること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	長期モデル	長期均衡モデル、労働市場、長期の意味
3	貨幣数量説と利子率	貨幣数量説、古典派の二分法、名目利子率と実質利子率
4	総供給曲線	総供給曲線、労働者錯覚モデル、硬直的価格モデル
5	AD/AS 分析	物価水準の決定、政策の効果、実質残高効果
6	インフレーション1	フィリップス曲線、オークンの法則
7	インフレーション2	インフレーションの動学、物価水準の調整、均衡への調整過程
8	インフレーション3	インフレーションと期待、スタグフレーション、合理的期待形成
9	インフレーション4	インフレーションとデフレーションの社会的費用
10	消費の理論	短期と長期の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
11	投資の決定	加速度原理、ストック調整モデル、トービンのq
12	経済成長1	ハロッド・ドーマー・モデル、新古典派成長理論
13	経済成長2	成長会計、内生的成長理論
14	日本経済とマクロ経済政策	戦後の経済政策の歴史、最近のトピック
15	マクロ経済政策と国家	グローバル化、マクロ経済学と国家、ソブリン問題

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teamsにより、毎回、課題を課す。講義資料はTeams上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『入門マクロ経済学 第6版』	中谷巖	日本評論社	3,080円
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

経済学入門、経済データの読み方、基礎経済学、マクロ経済学A、ミクロ経済学A・B。
 その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問はTeamsのチャット等でも受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学AC2（消費者行動と生産者行動）	范立君	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

ミクロ経済学は家計や企業などの、個別の経済主体の経済活動の動きに着目し、個々の市場—労働市場、為替市場、米市場など—の需要と供給について、分析する学問である。これに対して、景気の動き、マクロ経済政策、経済成長など、経済全体の大きな動きについて分析するのがマクロ経済学である。本講義では、ミクロ経済学を取り上げ、以下の3点を中心に講義する。第1に、市場において、需要と供給から価格がどう決まるか、第2に、そうした価格形成に伴って企業の生産活動や消費者の消費行動はどのように影響を受けるか、第3に、経済資源の最適分配のメカニズムについてしっかり理解する。

(3) 到達目標

- ① ミクロ経済学の目的を理解する。
- ② 身近な家計や企業の経済活動をミクロ経済学の考え方で理解する。
- ③ 関連するテレビニュースや新聞記事を理解する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、ルール、アンケート調査、ミクロ経済学の特徴
2	価格はどう決まる	動画教材—市場は人類の大発明：価格はどう決まる
3	家計の行動と需要曲線①	需要と供給の分析
4	家計の行動と需要曲線②	需要曲線のシフト、消費者余剰
5	家計の行動と需要曲線③	DVD 教材—家計は効用を最大化する、予算制約線と無差別曲線
6	家計の行動と需要曲線④	価格弾力性の応用
7	家計の行動と需要曲線⑤	計算問題の演習、およびその説明
8	小テスト①	家計の行動と需要曲線
9	企業の行動と供給曲線①	供給曲線とは、供給曲線のシフト
10	企業の行動と供給曲線②	費用の構造と供給行動、限界的とは、完全競争
11	企業の行動と供給曲線③	DVD 教材—企業は利益を最大化する
12	企業の行動と供給曲線④	計算問題の演習、およびその説明
13	企業の行動と供給曲線⑤	企業費用の練習問題とその回答
14	小テスト②	企業の行動と供給曲線
15	まとめ	市場取引と資源配分

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。理解力をチェックするため、授業内で練習問題をやらせよう。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験(70%)
- ② 小テストおよび一言カードへの感想・疑問への記入(30%)、の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	入門経済学 第4版	伊藤元重	日本評論社	3,300円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

基礎経済学、経済学入門、ミクロ経済学Bなど、「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学説史A（経済学の生誕）	伊藤 誠一郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

アダム・スミスが経済学を作ったということ、彼の描いた自由主義経済の理想は今日なお理想として追い求められていることは、21世紀になった今になってすら実感できることである。しかし、実際の経済・社会の歴史のプロセスは直線的なその理想の追求とはほど遠いこと、そしてなによりもスミス自身がどのような「現実」のなかで彼の理想を語っていたのかにはあまり注意が払われないのも事実である。アダム・スミスがいた社会はすでに今日と同じように、貨幣・金融、貿易、貧困などの経済問題や政治についての諸問題が激しく議論されていた社会であり、スミスの『国富論』はそれに対するひとつの解答でもあった。本講では、こうした視点から、まずスミスが登場するまでのイギリス、そしてヨーロッパにおいて、なにが問題とされどのように議論されていたのかを示し、それに対してスミスが与えた新しい経済・社会像はどのようなものであったのかをみていく。

(3) 到達目標

- ① 思想史の学び方について考える。
- ② 17・18世紀のヨーロッパ社会がどのような問題を抱えていたのかを知る。
- ③ アダム・スミスにおける経済学の創造に至るプロセスおよび、その特徴を学ぶ。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	経済思想の過去と現在(1)	「経済学の生誕」、スミスの理想＝新しい社会像
2	経済思想の過去と現在(2)	スミスの幻想、スミスの前提としてのホッブズの政治哲学
3	スミス以前の現実(1)	ホッブズと恐怖に満ちた社会
4	スミス以前の現実(2)	国際社会と経済
5	スミス以前の現実(3)	オランダとの競争
6	スミス以前の現実(4)	国際競争の中の貿易、利子、金融制度
7	スミス以前の現実(5)	フランスとの競争
8	富と徳(1)	古典共和主義
9	富と徳(2)	新しい富の台頭と徳の腐敗
10	為政者と経済学(1)	有能な為政者・徳による統治
11	為政者と経済学(2)	ジェームス・ステュアート、為政者の経済学
12	スミスと経済学の成立(1)	仁愛か正義か
13	スミスと経済学の成立(2)	自然法学と経済学
14	スミスと経済学の成立(3)	重商主義批判
15	スミスと経済学の成立(4)	スミスの経済学、自由主義の理想と現実

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 授業内課題（50％）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	『徳・商業・文明社会』	坂本・長尾編	京都大学学術出版会	6,600円
参考書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴェ書房	3,520円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史B

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学説史B (経済学の限界とマルクス)	伊藤 誠一郎	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

18世紀末アダム・スミスによって「経済学の生誕」が告げられてまもない19世紀初頭、その経済学を数学的に体系化しようとしたリカードは、そしてそれを批判的に継承したJ.S.ミルは、すでに資本主義経済に限界が来ることを予見していた。実際19世紀から、今日の21世紀に至るまでの経済学の歴史は、絶望と試行錯誤の連続であった。1980年代サッチャー首相やレーガン大統領による新自由主義によって新古典派経済学がその普遍性を獲得したかのような幻想があくまでも幻想だったことは、2008年の世界金融恐慌をはじめ今日の経済が抱えている諸問題をみればすぐわかる。本講では、その時々の‘流行’の経済学に戻り回されず、われわれ自身の未来をわれわれ自身で築いていくための確かな知識をうるために、経済学の確立以降のこの学問の格闘の姿を見ていきたい。

(3) 到達目標

- ① スミスの『国富論』の主張がどういう点にあったのかをみる。
- ② スミスの『国富論』からどのようにその後のマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学が発展していったかを学ぶ。
- ③ 経済思想の展開と非経済学(政治、社会など)との関係について考える。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	資本主義の限界	利潤率逓減
2	未来像(1)	改良、ミルと社会主義
3	未来像(2)	革命、マルクスと共産主義
4	『資本論』(1)	マルクスの価値論
5	『資本論』(2)	マルクスの労働、再生産の理論
6	価値と価格(1)	労働ではかるか、効用ではかるか
7	価値と価格(2)	ワルラスの一般均衡理論
8	帝国主義(1)	ヒルファディング、金融独占、組織資本主義論、経済の社会化
9	帝国主義(2)	レーニン、産業独占、革命へ
10	自由か介入か(1)	市場の不完全性とケインズの時代
11	自由か介入か(2)	ハーヴェイ・ロードの前提
12	自由か介入か(3)	市場経済と福祉、ケインズ、ベヴァレッジ
13	ケインズ後	分配がさきか、価格がさきか
14	新自由主義	スミスの再登場、もしくは曲解?
15	第三の道	マルクスは死んだのか? - 新しい経済学の可能性へむけて

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 (50%)、② 授業内課題 (50%)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴェ書房	3,520円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史A

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済統計学（経済指標と統計的分析）	上西 雄太	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

経済学の指標や指数を把握することは、経済・社会の現状や問題を把握する上で重要である。また一方で、データの収集や統計学的な分析手法を理解することも、経済分析のレポートや論文を読み解く上で不可欠と言える。本講義は、経済分析の基本となる指標・指数について複数解説する。また、データ収集や統計データの基本的な読み方、回帰分析や因果推論などの統計的手法の考え方・概略についても扱う。講義内で練習問題を複数解くことで、統計の基本や指標についての理解を深めてもらう予定である。なお、「統計学Ⅰ/Ⅱ」を履修していなくても理解できる内容になっているので、それらを履修していない人も安心して本講義に参加して欲しい。

(3) 到達目標

- ① 経済統計学における基本的な指標・指数を説明できる。
- ② 基本的な統計学の考え方を習得し、回帰分析と因果推論の概略を説明できる。
- ③ 経済データを分析し説明する力を高める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	データの収集（1）	社会調査の基本、母集団と標本抽出
3	データの収集（2）	統計データの収集・種類について
4	記述統計（1）	平均、中央値、最頻値
5	記述統計（2）	母集団と標本調査、分散、標準偏差
6	記述統計（3）	度数分布とヒストグラム
7	記述統計（4）	度数分布表からの統計量、平均の種類
8	所得格差の分析（1）	格差の種類、ローレンツ曲線
9	所得格差の分析（2）	ジニ係数、演習問題
10	貧困の分析	貧困線、貧困率、貧困ギャップ率
11	経済指数の理論（1）	個別指数と総合指数、金額指数、物価指数と数量指数
12	経済指数の理論（2）	パーシェ指数とラスパイレス指数
13	回帰分析	回帰分析の概念、分析例
14	因果推論（1）	相関関係と因果関係、疑似相関とそのパターン
15	因果推論（2）	社会科学における「実験」、因果推論の手法

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に練習問題を解く。この積み重ねにより、理解が深まることを期待する。予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容をよく復習し理解する作業に時間を費やして欲しい。より意欲のある学生は、講義内で紹介する参考文献を読むと良い。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	種類が多いので、適宜講義内で紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

統計学Ⅰ/Ⅱと関連する内容、それを補足する内容を多く含んでいる。また、本講義で学ぶ指標・指数を理解するとマクロ経済学の理解が深まる。様々な種類のデータに関心がある学生は、経済データの読み方を履修するのも良い。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
計量経済学（回帰分析の概念と手法）	上西 雄太	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

計量経済学は、経済理論が現実の経済に当てはまっているのかをチェックしたり、表面的には把握しにくい経済的な法則性・関連性を発見したりするために、統計学から発展した学問分野である。また近年の情報処理技術の発達に伴い、Excel や R などの統計ソフトを用いることで容易にそのような分析ができるようになった。本講義は、計量経済学のコアともいえる回帰分析の概念をおもに学び、Excel を用いて回帰分析の手法による現実経済の分析ができるようになることを目的としている。講義の最初は統計学のおさらいから始め、単回帰分析・重回帰分析とその周辺を学んでいく。「統計学 I/II」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

(3) 到達目標

- ① 計量経済学の基礎である、回帰分析に関する基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について回帰分析の手法を用い分析できるようにする。
- ③ 計量経済学の考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力や説明力高める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	確率と統計のおさらい（1）	大数の法則と中心極限定理
3	確率と統計のおさらい（2）	信頼区間の推定（1）
4	確率と統計のおさらい（3）	信頼区間の推定（2）、仮説検定（1）
5	確率と統計のおさらい（4）	仮説検定（2）、演習問題
6	関連の分析（1）	散布図と共分散
7	関連の分析（2）	相関係数、具体的な相関係数の分析
8	回帰分析（1）	回帰分析の導入、単回帰分析
9	回帰分析（2）	古典的最小2乗法
10	回帰分析（3）	Excel を用いた単回帰分析の方法
11	回帰分析（4）	誤差分散、標準誤差、決定係数（傾きの回帰係数の説明力）
12	回帰分析（5）	傾きの回帰係数の信頼区間の推定
13	回帰分析（6）	傾きの回帰係数の有意性（仮説検定による有意性のチェック）
14	回帰分析（7）	重回帰モデル、Excel を用いた重回帰分析の方法、回帰係数の説明力と有意性
15	補足、まとめ、レポートについて	重回帰分析の注意点、レポートの詳細と注意点

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。必要に応じて講義の最後に演習問題を解く予定である。また、Excel を用いて実際に分析する過程を見せる予定である。各々ノート PC を持ち込んで、模倣して分析の練習をしても良い。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外課題には十分な時間を取って欲しい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート 80%
 - ② 授業内外での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

統計学 I/II を履修していると話が分かりやすいが、未履修の人にも分かるよう必要な統計学の知識をおさらいしつつ講義を進めていく。なお、本講義で身につく回帰分析の手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会経済学（資本主義体制の仕組み）	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義は現代社会の経済（資本主義生産体制）の仕組みについて、説明する。講義内容は主に以下の3つの内容からなる。

第1 経済学は「何を」明らかにする学問であろうかについて、考察する。

第2 （社会）経済学の土台＝労働を基礎とする社会把握について、勉強する。

第3 資本主義的生産様式はどのようなものであり、どのような仕組みをもち、どのようにして再生産されているのか、を勉強した上、さらに、資本主義の経済的運動法則、すなわちその発生・発展・消滅の法則をも考える。

(3) 到達目標

- ① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつけること。
- ② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や一定の問題の解決方法を知ること。
- ③ 自分のキャリア計画を含め、人類、そのものの行方について、視野に入れることができること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	社会経済学で何を学ぶか
2	現代社会と社会経済学	現代社会の特質は資本主義という社会形態にある、経済学の対象と方法
3	労働と生産	労働と労働力の違い、生産力と生産関係
4	生産様式とその交替	生産力の発展と社会発展の一般的法則
5	資本の生産過程①	商品と貨幣、貨幣の機能、資本とはなにか
6	資本の生産過程②	付加価値とは何か、資本と利潤
7	資本の生産過程③	利潤率の傾向的に低下法則
8	生産力発展のための諸方法①	協業、分業とマニファクチュア
9	生産力発展のための諸方法②	機械と大工業
10	授業内小テスト	上記今までの内容の考察
11	資本主義的生産関係と労賃①	資本主義的に生産関係＝資本・賃労働関係の具体的に内容
12	資本主義的生産関係と労賃②	労賃とはなにか、その本質と現象形態
13	資本の再生産①	単純再生産
14	資本の再生産②	資本の蓄積と拡大再生産
15	資本の再生産③	資本主義的生産の歴史的位

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末レポート（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	図解 社会経済学	大谷禎之介	桜井書店	3,300円
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、マクロ経済学など「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済史A(戦前期)	福地 幸文	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる(「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

この授業では、主に幕末期から第二次世界大戦期までの日本の経済史について学ぶ。最初に日本の近代経済史の起点となる江戸時代の経済的到達点を確認する。幕藩体制から明治維新、そして大正・昭和と、日本は激動の時代の中にあつて、大きくその姿を変えてきた。この授業では「経済史」という物差しをつかって、日本という急激に成長した国家の姿を捉え、現代の我々の生活にどのようなつながってきたのかを学習する。

(3) 到達目標

- ① 明治維新から第二次世界大戦期までの日本の経済・社会の発展過程を理解している。
- ② 日本という後発資本主義国家の成長モデルについて理解している。
- ③ 現在の私たちの生活がどのような経緯に規定されているのかを考察できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	江戸時代の経済的達成状況	人口・教育・生活、農業と工業、経済政策とインフレーション
3	明治維新1	地租改正・秩禄処分など、維新の制度改革の内容と社会への影響
4	明治維新2	日本における近代的貨幣制度の確立過程
5	明治維新3	新産業と会社制度、ならびに殖産興業政策
6	産業化1	技術導入とその変容、在来産業の展開、産業化の担い手たち
7	産業化2	明治期の情報革命
8	日清戦後経営	日清戦争と戦後経営(社会政策)
9	日露戦後経営	日露戦争と戦後経営(社会政策)
10	戦間期1	第一次世界大戦、重化学工業と都市化、戦後デフレーションと恐慌
11	戦間期2	1920年代の経済構造、関東大震災と金融恐慌
12	戦間期3	昭和恐慌
13	戦間期4	1930年代の経済成長と高橋財政、1930年代の経済機構
14	戦時経済	戦時直接統制、太平洋戦争、被害と戦後への「遺産」
15	まとめ	授業の総括、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

- ① 基本的に講義形式で行う(パワーポイントを投影する)。授業の配布資料を事前にTeamsにアップロードする。
- ② Teamsを使って課題を提示する(10回を予定)。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(50%)、② 授業の課題(40%)、③ 授業貢献度(10%)の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特に指定しない			
参考書	日本経済—その成長と構造 [第3版]	中村隆英	東京大学出版会	4330円
	明治大正期の経済	中村隆英	東京大学出版会	3600円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

日本経済史B、西洋経済史

(9) オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます(要予約)。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済史B（戦後期）	福地 幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、主に敗戦直後から現在までの日本の経済史について学ぶ。戦後の改革を通して日本がどのように生まれ変わったのかを理解する。加えて、戦前からどのような要素が引き継がれたのかを見ながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を追う。また、経済政策が日本経済の在り様にいかなる影響をもたらしているのかを考える。

(3) 到達目標

- ① 戦後における日本経済発展の仕組みを理解している。
- ② 現代の日本経済の問題点がどこにあるのかを歴史的に考察できる。
- ③ 経済と政治の関係を踏まえた上で、経済政策の効果を考察できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	敗戦直後の日本経済	敗戦直後の日本社会、敗戦直後の日本経済、敗戦直後の統計
3	戦後の民主化政策	敗戦前後の経緯、財閥解体、農地改革、労働改革、まとめ
4	経済の復興1	初期の占領政策と日本の対応、アメリカの政策転換
5	経済の復興2	ドッジ・ライン、労働政策の変化、朝鮮戦争、サンフランシスコ講和条約
6	高度成長期1	高度成長の20年、国際環境、成長と循環
7	高度成長期2	財政投融资、所得倍増計画、成長分野と停滞分野、高度成長は日本を変えた
8	高度成長期3	まとめ（高度成長期の政策、事業および社会問題の主要な側面）
9	1970年代の日本経済1	ニクソン・ショックの背景、2つのショックと高度成長の終焉
10	1970年代の日本経済2	成長率低下への調整、減量経営と戦後社会の転換
11	1980年代の日本経済1	国際経済・通貨の激動、新自由主義改革の始まり
12	1980年代の日本経済2	バブル経済
13	バブル崩壊以後の日本経済1	バブル反動不況、不況の二番底、【参考】権限と責任
14	バブル崩壊以後の日本経済2	長期不況からの脱出、小泉内閣の構造改革
15	世界金融危機前後の日本経済	世界金融危機、東日本大震災前後の日本経済

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
- ② Teams を使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（50%）、②授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特に指定しない。			
参考書	日本の経済 一歴史・現状・論点	伊藤 修	中央公論新社	990円
	日本経済—その成長と構造 [第3版]	中村隆英	東京大学出版会	4330円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史A、西洋経済史

(9) オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
西洋経済史（西洋経済の近現代史）	福地 幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、私たちが生活する資本主義世界に対する分析や理解を深めるために、近代以降において西洋（主にヨーロッパと北米）の経済活動や人々の生活から資本主義がどのように発展、変容してきたのかを学ぶ。

西洋経済における近代化の歴史的起点を確認した上で、商業革命、市民革命、そして産業革命へと展開する西洋の経済発展の過程を考察する。また、二度にわたる世界大戦の西洋経済に与えた影響、並びに第二次世界大戦後の西洋経済の発展過程を概観する。

そして最後に、近年のグローバル経済について検討する。

(3) 到達目標

- ① 近代西洋経済の発展過程を理解している。
- ② パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカナなど覇権国家の形成・移行過程を理解している。
- ③ これからのグローバル経済について考察できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業内容の説明、世界のGDPの推移、グローバル経済の形成
2	商業革命と「中世の世界経済」の解体	中世貿易の枠組みの分解、地理上の発見と東インド貿易、アジア域内貿易
3	16～17世紀の経済発展	価格革命、農業、工業、イギリス毛織物工業のセクター転換
4	絶対王政と市民革命	絶対王政、イギリス革命、フランス革命、フランス革命の波及
5	イギリスの重商主義	イギリス重商主義の支配体制、重商主義の経済政策
6	産業革命前夜のイギリス経済	農産物需給関係の逆転、大衆的購買力の上昇、18世紀前半のイギリス経済の特質
7	イギリスの産業革命	産業革命へのスタート、綿工業における工場制度の成立、イギリス産業革命の特質
8	技術進歩と工業化	ヨーロッパ大陸諸国の産業革命、技術進歩と工業化
9	世界市場の成立とアメリカ経済の発展	世界市場の成立と構造、アメリカ経済の発展1
10	アメリカ経済の発展と大不況の到来	アメリカ経済の発展2、19世紀末の大不況と資本主義の構造転換
11	第一次大戦前の世界経済	第一次大戦前の世界経済
12	世界大戦とヨーロッパ経済1	第一次世界大戦の経済史的意味、1920年代の繁栄から世界恐慌
13	世界大戦とヨーロッパ経済2	世界恐慌とヨーロッパ経済、第二次世界大戦
14	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済1	戦後国際経済の枠組みと冷戦、経済成長の時代
15	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済2	危機とグローバル経済、EUへの道

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前にTeamsにアップロードする。
- ② Teamsを使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（50%）、②授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	新版 西洋経済史	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實	有斐閣	1980円
参考書	グローバル経済史入門	杉山伸也	岩波書店	990円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史A、日本経済史B

(9) オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本企業論	唐澤 克樹	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、グローバル化が進展する現代において日本企業がどのような特徴や課題をもち、社会の一員としてどのような貢献をしているか考察することが目的である。そのために、戦後日本における産業構造や就業構造の変化、ライフスタイルの変化、就業形態や働き方の変化、地場産業や地域商業の変化、中小企業政策の変化について考察する。本講義の前半では主に雇用・労働やライフスタイルなど側面から日本企業について検討し、就職活動や就職後における自分自身のキャリアについて考える。後半では、主に中小企業に焦点をあて、地場産業の事例として繊維・アパレル産業について検討し、地場産業やその主たる担い手である中小企業の経営的特徴と課題、地域との関係性について考察する。これらを通じて、グローバル化が進展するなかで日本企業がどのような存在となっていくのかを考えていく。

(3) 到達目標

- ①戦後日本における産業や企業の変化について説明することができる。
- ②就職活動や就職後に自分のキャリアデザインを考えることができる。
- ③繊維・アパレル産業の事例を基に地場産業や中小企業が抱える諸問題や解決策を考えることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	日本企業論を学ぶ目的と意義、授業の内容、授業の進め方、評価方法
2	産業と企業の捉え方	産業の分類、企業の分類、中小企業の定義
3	グローバル化と日本企業	グローバル化とは、産業と企業の変化、六大企業集団、グローバル大企業
4	大学生の就職活動と日本企業	就職活動、新卒採用、OJT、OFF-JT、日本的雇用慣行
5	仕事とキャリア	働くことと進学すること、キャリアデザイン、職業キャリア、ライフキャリア
6	就業形態の多様化と働き方	就業形態の多様化、働き方、労働者性、最低賃金、労働運動
7	起業・創業とM&A	中小企業、ベンチャー企業、スタートアップ企業、倒産・廃業、M&A
8	企業誘致と地域開発	コンビナート開発、企業誘致、公害問題、環境再生
9	地場産業と中小企業 (1)	地場産業とは、地域の歴史・文化、地域の社会・経済
10	地場産業と中小企業 (2)	繊維・アパレル産地、アパレルとファッション、ファッションと資本主義
11	地場産業と中小企業 (3)	ファストファッションの功罪、トレンドと価格、品質、労働問題、貧困問題
12	地場産業と中小企業 (4)	外国人労働力、デザイン戦略、中小企業のネットワークと連携
13	地域商業と中小企業	大規模小売店、Web販売、中小小売業、商店街、買い物難民対策
14	中小企業政策	中小企業政策の歴史、中小企業政策の必要性と範囲
15	まとめ	グローバル化の進展、大企業経営、中小企業経営、企業と地域の社会・経済

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書、スライド、配付資料を併用しながら授業を展開する。必要に応じて、動画、写真、マップやストリートビューを用いる。受講生自身が文献調査をしたり、ディスカッションをしたりする場を設けるなどして、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。毎回の授業で、授業に対する意見、感想、質問等をまとめたリアクション・ペーパーの提出を求める。その内容は、次回以降の授業を通じてフィードバックする。受講生は、授業で見聞きしたことを基にノートを作成し、自分なりの意見をもつことが望まれる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業内課題 (40%)、②期末レポート (60%)

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	地域づくりの経済学入門（増補改訂版）	岡田知弘	自治体研究社	2,970円
参考書	地域とつながる中小企業論	長山宗広 他	有斐閣	2,420円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、日本経済論、地域経済論などを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

社会や経済の情勢に注視し、それに対する自分なりの考えをもつこと。講義内容は、社会情勢の変化や受講生の興味関心によって若干変更する場合がある。質問等は、毎回の授業終了後や授業コメントで受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
金融論A（銀行の歴史と制度）	伊藤 誠一郎	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

資本主義という経済システムは、その始まるの時点においてすでに金融、とくに銀行の存在なしにはありえなかった。そして同時に、それはつねに銀行みずからがつくりだした金融システムの不安定性と脆弱性のなかで生き続けてきた。最近のユーロ圏の一連の騒動をみるまでもなく、とくに日本のバブル崩壊以降に降りてきた数々の金融危機が示すように、そもそも今日われわれが生きている貨幣社会の存立根拠は、人間が作り出した空想のなかにしかない非常に危ういものである。そして資本主義社会がその危うい貨幣制度なしでは発展できないのも事実である。本講では、そうした視点を持ちながら、そもそも銀行が、銀行券がどのようにつくられてきたのか、そしてそれがどうして中央銀行というものをつくりだす必要があったのか、歴史の現実を参照しつつみていきたい。

(3) 到達目標

- ① 金融制度の生成と歴史についての知識を習得すること。
- ② とくに銀行制度の仕組みを学ぶ。
- ③ 中央銀行というものがどのような経緯で必要となってきたかを知る。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	金融とはなにか	さまざまなかたちの金融
2	金融システムと銀行	金融システムにおける銀行の位置付け
3	貨幣について（1）	銀行券と貨幣
4	貨幣について（2）	貨幣の起源
5	銀行券の誕生（1）	アムステルダム銀行、金匠銀行
6	銀行券の誕生（2）	商業手形の流通とその限界
7	銀行券の誕生（3）	手形割引と信用創造
8	銀行券の誕生（4）	戦争と銀行券
9	銀行制度の展開（1）	イングランド銀行と兌換停止
10	銀行制度の展開（2）	地金論争、通貨論争
11	銀行制度の展開（3）	ピール条例と発券の集中
12	中央銀行の成立（1）	中央銀行と準備金
13	中央銀行の成立（2）	中央銀行の金融政策
14	中央銀行のあり方（1）	中央銀行の独立性
15	中央銀行のあり方（2）	各国の中央銀行、およびその政策（EU、アメリカ、日本）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50%）、② 授業内課題（50%）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

マクロ経済学A・B

(9) オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分は、上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
金融論B (金融の理論と現状)	伊藤 誠一郎	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準 (ディプロマポリシー) との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している (専門的な知識の修得)。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる (「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

金融システムの安定性、健全性が経済全体の行方にとっていかに重要なものであるか、そしてそれが国家の政策といかに深くかかわっているかは2008年の世界金融危機、2011年のユーロ危機の経緯を見ればよくわかる。金融システムは政治が、人間がつくりだしたものであり、その設計の仕方によっては、金融のみならず経済全体に破滅的なダメージを与えることになる。しかし、いつもそうした危機がおきるまで正しい設計がなにか分からないままである。なぜなのだろうか。本講ではこうした疑問への解答を探るために、金融システムのあり方を、日本の金融制度を具体例としてあげ、それを理論的に分析し、その上で現状がなぜそのようになってしまったのかを明らかにしていきたい。

(3) 到達目標

- ① 今日の金融システム、現状、理論についての知識を習得する。
- ② 貨幣数量説など、金融の基本的な分析手法を学ぶ。
- ③ 今日の日本の銀行システムや証券市場についての仕組み、基本的な知識を学ぶ。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	金融とは何か	間接金融と直接金融
2	貨幣と物価 (1)	貨幣数量説
3	貨幣と物価 (2)	貨幣数量説をめぐる諸説
4	わが国の貨幣 (1)	さまざまなかたちの貨幣
5	わが国の貨幣 (2)	日本銀行券、その他
6	金融政策 (1)	決済システムと中央銀行
7	金融政策 (2)	準備預金制度
8	金融政策 (3)	公定歩合操作と公開市場政策
9	ケインズ政策 (1)	ケインズの貨幣理論
10	ケインズ政策 (2)	長期不況と金融政策、財政政策
11	国際通貨の興亡	IMF体制とその崩壊、金廃貨
12	バブルと日本経済 (1)	高度成長期の日本の金融
13	バブルと日本経済 (2)	低成長と資産インフレ
14	バブルと日本経済 (3)	バブル崩壊と平成不況
15	新しい金融のあり方	不良債権処理とその後

(5) 授業の進め方と方法 (授業時間外の学習)

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題 (質問に対する答え、自由コメントなど) への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 (50%)、② 授業内課題 (50%)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目 (他の科目との前後のつながり)

マクロ経済学A・B

(9) オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分には上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際経済学（国際貿易の基礎理論の考察）	千原 則和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

「国際経済学」は、財やサービスの国境を越えた取引を分析する「国際貿易論」と、カネの国境を越えた取引を分析する「国際金融論」の2つの柱で構成されている。本講義では、前者の「国際貿易論」に焦点を絞って、国際貿易の基礎理論および貿易政策の基礎を学習する。後者の領域は、2年次から履修可能な「国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）」で学ぶことができる。

本講義の目的は、国際貿易論の基礎理論の学習を通じて、国家間で貿易を行うこと（＝自由貿易）のメリットと、貿易を制限すること（＝保護貿易）のデメリットを理解することにある。具体的には、①国家間で貿易を行うと国際経済にどのようなメリットが生じるのか、②途上国が先進国と貿易を行ってもメリットがあるのか、③政府が貿易を制限すると国内経済や国際経済にどのようなデメリットが生じるのか、④にもかかわらずなぜ国は貿易に制限をかけようとするのか、について考察していく。

(3) 到達目標

- ①国際貿易論・貿易政策の基礎を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要な知識を積み上げることができるようになる。
- ②基礎的な貿易理論を自力で説明することができるようになる。
- ③経済学のテキストに示されている図表が、何を意図し何を伝えようとしているのかを汲み取ることができるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	「国際経済学」の学問体系と本講義で学習する「国際貿易論」の範囲を紹介する
2	比較優位と分業の利益①	国際貿易の基本概念を理解する：交換・特化・分業の利益、絶対優位・比較優位
3	比較優位と分業の利益②	比較優位に基づく分業で特化の利益を生むメカニズムを理解する：比較優位・機会費用
4	比較優位と国際貿易①	比較優位に基づく国際分業で特化の利益を生むメカニズムを検討する：比較生産費説
5	比較優位と国際貿易②	「比較生産費説（リカード・モデル）」を検証する：閉鎖経済・開放経済（自由貿易）
6	比較優位と国際貿易③	自由貿易が先進国・途上国双方にメリットをもたらすメカニズムを把握する
7	部分均衡分析①：基礎	「余剰分析」の手法を理解する：消費者余剰・生産者余剰・総余剰、大国・小国の事例
8	部分均衡分析②：小国のケース	自由貿易による経済厚生向上（＝貿易利益）を「見える化」する：総余剰の変化
9	部分均衡分析③：大国のケース	大国の行動が国際価格や経済厚生に及ぼすメカニズムを検討する：2国モデル
10	比較優位の決定要因	供給面で比較優位性を決定づける5つの要因を考察する：ヘクシャー＝オリーン定理 等
11	国内産業保護政策（小国のケース）①	輸入制限のデメリットを検討する：輸入関税・輸入割当・「デッドウェイト・ロス」
12	国内産業保護政策（小国のケース）②	輸入制限に代わる国内産業保護政策を考察する：生産補助金・消費税
13	国内産業保護政策（小国のケース）③	国内産業保護政策の効果と課題について検討する：レント・シーキング、ロビー活動
14	国内産業保護政策（大国のケース）	大国が関税賦課で利益を生むメカニズムを理解する：最適関税
15	国内産業保護政策・まとめ	保護貿易を正当化する3つの主張を反証する：①最適関税・②市場の失敗・③雇用確保

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

参考書『国際経済学をつかむ（第2版）』の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義で使ったプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「R8 国際経済学」にアップロードする。「国際経済学」の内容に関する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時、または講義終了後に、Microsoft Forms を介して「理解度チェックテスト」を実施する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（80%）と②授業内及び授業後課題（20%）の合計点数により評価をする。定期試験は、参考書『国際経済学をつかむ（第2版）』の中から出題する。授業内及び授業後課題は、授業内で取り上げた時事問題も含まれる。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	国際経済学をつかむ（第2版）	石川 城太 他	有斐閣アルマ	2,420 円
参考書	国際経済学	阿部 顕三・遠藤 正寛	有斐閣アルマ	2,640 円
参考書	コンパクト 国際経済学	多和田 眞	新世社	2,035 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・基礎経済学などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア経済論（中国の躍起）	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

第2次世界大戦後、貧困と停滞の地として語られていたアジアは、1970年代以降、地域として工業化と対外開放を進め、「東アジアの奇跡」と呼ばれた急速な経済成長を遂げた。アジア経済と関連して、人々の暮らしは急激に変化してきた。私たちの住むアジアの変化の特徴とその背景を理解することは、私たちの今と将来を考えるうえで、ことのほか重要である。本講義は、以下の3つの側面から、アジア経済について、基本的な知識を中心に学ぶ。

- 第1：第2次世界大戦後におけるアジア経済の歩み
- 第2：第2次世界大戦以降の中国経済の歩み
- 第3：中国、日本、韓国とASEANを中心とする経済統合

(3) 到達目標

- ① アジア地域の経済に関して、関心・興味を深める。
- ② 第2次世界大戦後、中国経済の展開、躍起とその問題点について考える。
- ③ アジアの経済統合の仕組みについて、把握してもらう

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	アジア経済論で何を学ぶか
2	アジアの概況とアジア経済の現状	本講義で扱うアジアの範囲、およびその経済の現状など
3	「日本一極」の20世紀①	日本の戦後復興と高度成長
4	「日本一極」の20世紀②	雁行形態型発展モデル、キャッチアップ型工業化論など
5	「日本一極」の20世紀③	NIEsの躍進、中国の「復帰」
6	アジアの経済統合①	デファクトの経済統合とグローバル・バリューチェーン
7	アジアの経済統合②	デジュールの経済統合と今後の課題
8	「世界の工場」から「世界の市場」へ	アジア生産ネットワークの組み立て現場としての中国、消費大国化しつつある中国
9	中国の台頭と新興アジア経済へ①	鄧小平と改革問題の提起
10	中国の台頭と新興アジア経済へ②	労働市場と農村からの出稼ぎ労働者
11	中国の台頭と新興アジア経済へ③	中国の出稼ぎ少女たち（動画資料視聴）
12	中国の台頭と新興アジア経済へ④	人口ボーナスと経済発展
13	中国の台頭と新興アジア経済へ⑤	金融改革、国有企業改革、日中国交回復など、中国の超高成長の原因について考える
14	中国の台頭と新興アジア経済へ⑥	低所得国の成長率が高い理由、中所得国の罍
15	アジアの時代を生き抜くために	日本衰退論を超えて、アジアとともに未来を築く

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	現代中国の中小企業金融（増補版）	范立君（2021）	時潮社	3,520円
	アジア経済とは何か	後藤健太（2019）	中公新書	902円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11:30～12:30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）	千原 則和	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

「国際金融論」は、「国際経済学」の学問領域に属し、「カネ」の国境を越えた取引を分析する学問である（「財・サービス」の国境を越えた取引を分析するのは「国際貿易論」で、1年次後期より履修可能）。本講義では、新聞やテレビ等で毎日のように取り上げられる国際的な金融取引に関するトピック（外国為替相場・金融のグローバル化・金融危機など）に焦点を絞り、国際金融の基礎的な知識・制度・歴史を学習する。

本講義の目的は、「①外国為替市場や外国為替取引はどのような仕組みになっているのか」、「②国際通貨制度はどのような変遷をたどり、ドル・ユーロ・円は今どうなっているのか」、「③金融のグローバル化は世界経済にどのような影響をもたらしたのか」を理解することにある。金融理論の習得よりも、まさに今起こっている問題をより深く理解することの方に重点を置いて、講義を進める。

(3) 到達目標

- ①国際金融の基礎的な知識を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要な知識を積み上げることができるようになる。
- ②国際的な金融取引に関する主要なトピックについて、自力で説明することができるようになる。
- ③国際金融に関する時事問題に関心を持ち、自ら調べ、をより深く理解することができるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	「国際経済学」の学問体系と本講義で学習する「国際金融論」の範囲を紹介する
2	外国為替のしくみ①	外国為替の仕組みとリスクについて理解する：内国為替・外国為替・為替リスク
3	外国為替のしくみ②	貿易取引の決済がどのように行われているかを理解する：信用状取引
4	外国為替相場	様々な為替相場の種類や性格を把握する：直物・先物相場、銀行間・対顧客相場
5	外国為替市場①	外国為替市場の構成メンバーや取引手法を理解する：為替ブローカー・電子取引
6	外国為替市場②	世界の外国為替市場や国際金融市場の概要を理解する：ユーロ市場・オフショア市場
7	為替リスクとヘッジ手段	為替リスクヘッジの手段や方法を把握する：デリバティブ（フォワード・オプション等）
8	国際収支	国際収支の概念と仕組みを理解する：経常収支・金融収支
9	国際通貨制度の変遷①	国際通貨制度の役割と性格を把握する：国際通貨・基軸通貨・国際金融のトリレンマ
10	国際通貨制度の変遷②	第二次世界大戦前までの通貨制度を概観する：国際金本位制度・国際金為替本位制度
11	国際通貨制度の変遷③	第二次世界大戦後の通貨制度を概観する①：固定相場制・ブレトンウッズ体制
12	国際通貨制度の変遷④	第二次世界大戦後の通貨制度を概観する②：変動相場制・国際的な政策協調
13	欧州通貨統合①	通貨統合の経緯・背景を理解する：ECSC・EEC・EC、EMS（欧州通貨制度）
14	欧州通貨統合②	通貨統合の意義・課題を理解する：EU・ユーロ、欧州通貨危機・ユーロ圏危機
15	金融グローバル化の功罪	金融グローバル化の功と罪を把握する：通貨危機、ユーロ圏危機、リーマンショック

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

主として参考書『新・国際金融のしくみ』の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義で使用したプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「R8 国際金融論」にアップロードする。「国際金融論」の内容に関する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時、または講義終了後に、Microsoft Forms を介して「理解度チェックテスト」を実施する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（80%）と②授業内及び授業後課題（20%）の合計点数により評価をする。定期試験は、参考書『新・国際金融のしくみ』の中から出題する。授業内及び授業後課題は、授業内で取り上げた時事問題も含まれる。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	新・国際金融のしくみ	西村 陽造・佐久間 浩司	有斐閣アルマ	2,530 円
参考書	はじめて学ぶ国際経済（新版）	浦田 秀次郎 他	有斐閣アルマ	2,200 円
参考書	国際金融論のエッセンス	高浜 光信・高屋 定美 編著	文真堂	2,970 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・基礎経済学などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域経済論（地域経済における理論的・実証的諸課題と展望）◆	槇平 龍宏	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

グローバル化とローカル化の同時進行の下で、また資源・環境問題が重視される中で、地域的生産システムのあり方が問われている。本講義では、地域的生産システムに関する既存の議論（需要主導型/供給主導型）に加えて、産業立地論や集積論、都市経済論の成果を導入するかたちで、グローバル経済下における地域経済の実態と問題、今後のあり方に関する理解を深めていきたい。前半では、講義の前提として、国家の枠組みを超えて進む地域主義とグローバリズムの実態について概観し、併せて地域経済の成長に関する理論、不均等発展に関する理論、累積的成長理論、産業立地の理論、新しい空間経済理論等について理解を深める。後半では、我が国の地域政策と地域問題を学習し、我が国の国土開発政策の歴史的検討、さらには「地域経済活性化」を含む「地域づくり」をどのように進めていくかという政策的課題について考察を進めたい。

(3) 到達目標

- ①グローバル経済下における地域経済の問題点を経済学的に説明し、評価できるようになる。
- ②今後の地域経済と国民生活との関係性について自らの問題意識から仮説を立て、自ら調べ、考えをまとめ、意見を述べるができるようになる。
- ③身近な地域の経済的課題についての考察結果を自らの言葉でレポートできるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	新しい地域主義とグローバリズムの並進
2	地域経済論の理論（1）	地域経済の成長と交易に関する理論
3	地域経済論の理論（2）	地域間格差と人口移動に関する理論
4	地域経済論の理論（3）	産業立地と集積の理論
5	地域経済論の理論（4）	都市システムと土地利用に関する理論
6	地域経済と地域問題（1）	地域経済の多様性の形成プロセス
7	地域経済と地域問題（2）	東京一極集中と都市問題
8	地域経済と地域問題（3）	産業構造の転換と地域経済構造
9	地域開発政策の展開（1）	高度経済成長期～低経済成長期
10	地域開発政策の展開（2）	低経済成長期～現代
11	地方財政と地方分権（1）	地域経済のマクロ・バランスとは何か？
12	地方財政と地方分権（2）	地域経済の循環とは何か？
13	地域づくりと課題（1）	内発的発展論を中心に
14	地域づくりと課題（2）	「産業の地域化」と「地域の産業化」
15	おわりに	地域経済活性化へ向けた政策的課題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進める。講義終了後に感想や疑問をリアクションペーパー（「ひとことカード」）に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（80%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入内容（20%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、農業経済学、環境経済学

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。講義内容は連続しているため、特別な理由なく欠席はしないこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地方自治論（住民主体のまちづくり）	吉澤 佑葵	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「地方自治」と聞くと難しく感じるかもしれないが、ゴミ収集から消防、福祉、教育に至るまで、私たちの毎日の暮らしは自治体の仕事によって支えられている。しかし、現在の自治体は、少子高齢化・人口減少や財政難などの困難な課題に直面している。

本講義では、まず日本の地方自治の理念や仕組み、戦前から現在に至る歴史を整理し、地方自治の全体像について学んでいく。その上で、地方分権改革や市町村合併、地方創生が地域に何をもたらしたのかについて考えたい。講義の後半では、行政だけでは解決できない地域課題に対する、NPOや地域コミュニティの役割にも目を向ける。ひとりの住民として、今後の地域のあり方を考える力を養うことが、本講義の目的である。

(3) 到達目標

- ① 地方自治に関する基礎的な知識を習得する。
- ② 地域の一員として、地方自治の観点から身近な地域の課題について考え、説明することができる。
- ③ 講義の内容をもとに、地域の課題の解決の方法について、論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	「地方自治」の理念と意義	「地方自治」とは
3	日本の自治体の仕組み	自治体の制度と役割：国・都道府県・市町村の役割分担
4	自治体議会の仕組み	自治体議会の制度と課題
5	自治体行政の仕組み	自治体行政の制度と課題
6	日本の地方自治の歴史①	戦前の地方行政
7	日本の地方自治の歴史②	戦後の自治制度改革：戦後改革から1980年代まで
8	地方分権改革の推進①	地方分権改革の潮流と背景
9	地方分権改革の推進②	地方分権改革の到達点と今日の課題
10	自治体合併の歴史と課題	市町村合併の歴史と課題
11	人口減少と地方創生	「地方創生」の背景と現状
12	地域コミュニティの現状と課題	自治会・町内会と新たな地域コミュニティ
13	NPO・住民協働	地域の担い手としてのNPOと住民協働
14	政策と条例	政策とは何か：条例と政策法務
15	地方自治とまちづくり	持続可能なまちづくりに向けて

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に講義形式で授業をおこなう（パワーポイントやレジュメを併用）。くわえて、国や自治体の動向や取り組み事例等を紹介する資料を配布する。講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等をおこなうこともある。予習は必要ないが、普段から国や自治体に関するニュース等に関心を持つておくことが望ましい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（60%）、② 授業での課題（30%）、③ 授業貢献度（10%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『これからの地方自治の教科書 改訂版』	大森彌・大杉覚	第一法規	2,750円
	配布プリント			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1年時に政治学、行政学、公共政策系科目群を取得していることが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、授業の前後に対応する。授業の進め方、内容等は第1回目の授業で説明する。なお、授業の進度・内容は、受講生の構成により若干変更の可能性があり、地域に関心がある幅広い学生を求める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
農業経済学（農業・食料・農村地域をめぐる諸課題と展望）◆	榎平 龍宏	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

授業の内容として、特に理解を深めることを重視したい項目は以下のとおりである。①農業及び農業関連産業の特徴②わが国・特定地域の農業・農政を理解する上での国際比較の重要性③農業生産システムの特徴と農村地域社会の実態④農産物流通及びフードシステムの仕組みとアグリビジネスの展開⑤食料消費構造の特徴と新展開⑥世界の農業と食料需給⑦農産物貿易の経済理論と農業保護⑧食をめぐる豊かさとは何か⑨高齢化・少子化社会における食生活の特徴⑩現代社会と食文化—その接点と意義—⑪食をめぐる国際化の進展⑫現代社会における「食」をめぐる関心と利害関係、その関係の多様化と安定性の確保⑬食生活の広がり—需要者（消費者）と供給者（生産者）の接点と動機の多様化⑭農の現場と食の現場の距離の拡大と縮小という二極化の進展⑮農産物供給の安全性と持続性の確保⑯食をめぐるリスク管理を可能にするシステムの確立。

(3) 到達目標

- ①農業や農業関連産業の存立構造を規定する食料の需給問題と、それを反映した農業政策や農産物市場の特質、農産物貿易のあり方について、また農業に特徴的な生産要素である土地と労働について、さらに食品関連産業の発展と食品安全をめぐる諸課題について理解を深める。食料需給構造やフードシステムから農業及び農業関連産業の課題を見通せるようになる。
- ②農村地域社会の諸問題を知り、課題解決のための諸施策について理解を深める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本講義の概要と目的
2	農業経済学の領域と課題	農業・農業関連産業とは何か、「農業・食料・農業問題」とは何か
3	国際的に見た農業の多様性	農業や食料需給の多様性理解、比較農業・政策論の重要性
4	農産物貿易の理論と実態	国際マクロ経済・貿易理論と農産物貿易の実態
5	各国の農業・食料政策（1）	先進国農業・食料政策、フードシステムと食品安全問題
6	各国の農業・食料政策（2）	新興国、発展途上国の農業・食料政策
7	食料の需要と供給（1）	食料需要の所得弾力性・価格弾力性
8	食料の需要と供給（2）	食料供給・農産物市場の不安定性
9	経済発展と農業・農村（1）	農業史分野の研究結果から
10	経済発展と農業・農村（2）	戦後の農業経済分析の研究結果から
11	農業・食料技術の新展開	農業・食料をめぐる技術進歩と今後のイノベーションの方向性
12	農業・農村組織の展開	「組織間関係」に着目して農業・農村の組織をみる
13	農業経営多角化の論理	「経営戦略」に着目して農業・農村をみる
14	アグリビジネスの展開	アグリビジネスの経営戦略とフードシステムの変貌
15	おわりに	持続可能な農業・農村へ向けた政策的課題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進めていく。講義の終了時に感想や疑問をリアクションペーパー（「ひとことカード」）に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（80%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入（20%）の合計点数により評価をする。定期試験やレポートの回答例は、補講等を通じて解説する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、地域経済論、環境経済学などの公共政策分野の諸科目

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。講義内容は連続しているため、特別な理由なく欠席はしないこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域福祉論	中畑 充弘	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

地域福祉は、社会福祉における新しい考え方であり新しい福祉サービスシステムである。2000年に社会福祉法が制定された以降、社会福祉のメインストリームとして着目されている。本講義ではソーシャルワーク実践にかかわる社会福祉援助の理念・方法と地域自立生活を支援する基盤となるシステムや条件整備について視聴覚教材なども援用しながら学習する。ソーシャルサポートの機能とは、個人を孤立・疎外させることなく、信頼・愛情・見守りなどの情緒的サポートや、具体的な手段のサポートである社会資源の提供、情報の交換により人を支えるものである。生活上のニーズ（苦悩・困難）、人生の見通し・希望などの個人因子と、それをとりまく環境因子のどこに問題があるのかを究明しよりよい地域福祉を醸成・推進していく様々な取り組みを学んでいく。社会的孤立をなくし自己肯定感をもちながら誰かのために役立つことのできる社会、豊かな人間関係に囲まれた「しあわせ」を希求する学問である。

(3) 到達目標

- ①あくまで主体的な住民参加が原則であり、地域住民ができないことを公的サービスで支えていくという協業であることを理解する。
- ②地域内の声かけ・思い遣り・配慮・助け合いなどの交流を通じて豊かな人間関係を広げ醸成していく実践が身につくようになる。
- ③学生諸君も主体性ある一市民として、地域の担い手である自覚をもって欲しい。地域住民自身が地域の問題に対応できる力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	地域福祉の歴史的展開	戦前後 復興期から、現在の‘システム’としての地域福祉を考える
2	生活困窮者自立支援	生活困窮の状況と生活困窮者支援における地域福祉の役割を学ぶ
3	地域福祉の理念と考え方	社会福祉の目的である自立生活・地域自立生活支援のあり方を知る
4	地域福祉の主体と福祉教育	社会福祉協議会・学校教育・福祉政策の「協同実践」と地域の支え
5	行政組織と民間組織の役割	行政・社会福祉法人に加え登場する多様な組織を学ぶ cf. NPO 法人
6	コミュニティソーシャルワーク	コミュニティソーシャルワークの考え方と特徴、専門職の役割を学習する
7	住民参加の方法と意義	住民が主体的に地域社会や福祉行政に「参加」することの意義を学ぶ
8	ソーシャルサポートネットワーク	左記 ネットワークの概要とエコロジカルアプローチについて学ぶ
9	社会資源の活用と開発	社会資源（ハード/ソフト）の内容と福祉サービスの開発について知る
10	福祉ニーズの多様化と把握	福祉ニーズの把握方法、アウトリーチ(出向き)・インタビュー方法を学ぶ
11	地域トータルケアシステム	左記 システムと保健・医療・福祉・介護との連携ネットワークを知る
12	福祉サービスの評価方法	多様な評価の仕組みとシステム、「プログラム評価」について学ぶ
13	災害支援と地域福祉	対人援助・ソーシャルワーク・生活再建・地域復興との関係を学ぶ
14	地域福祉の欧米比較・影響	イギリスの公私関係やアメリカのソーシャルワークについて学ぶ
15	介護予防・生活支援事業	介護制度の概要と支え合い体制づくり、介護予防・自立支援を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を展開していく。配布したレジュメプリントをベースとして適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。本講義は、自身を取り巻く家族や地域または共同体に密接した事象、身近な環境における諸問題を扱うので随時、身近な事例や意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト 50%
- ②授業中での課題 20%
- ③小レポート 20%
- ④授業への意欲的参加および平常点 10%

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	『地域福祉の理論と方法 第3版』	福祉臨床シリーズ編集委員会 編	弘文堂	2,700 円
	『よくわかる地域福祉 第5版』	上野谷、山縣、松端 編	ミネルヴァ書房	2,376 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「地域」という連合符、例えば「一政策入門」「一経済論」「一金融論」「一実習」は勿論であるが、とりわけ生涯発達論・キャリアデザイン論・人間関係論・大月学入門・社会保障論・行政学・社会学・健康論・スポーツレクリエーション実習は効果的。

(9) オフィスアワー・その他

日頃から、新聞（一般紙）の社会面、とりわけ「地方版」の記事を読み、福祉・保健・介護・医療などの諸問題について考えを巡らせておくとよい。授業の進度・内容は、受講生の構成（特別聴講生・市民の皆様の多少）により、若干の変更の可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
労働と法（働く前に知っておきたい労働のルール）◆	中野 宏典	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

法は、社会生活を営む上で不可欠のツールであり、法的なものの考え方に親しんでおくことは、法律を直接扱う職に就く場合は無論のこと、そうでない場合にも、さまざまな課題解決という場面で大いに有用である。本講義は、社会人として特に関係が深い労働法の基本的な知識を学ぶとともに、労働法を題材として、法的なものの考え方の基本を育み、今後、社会に出たときに少しでも役立つような内容とする。

パワーポイント資料を用いた解説と学生からの発言・意見交換に重点を置く。特別な準備・予習を求めるものではないので、気軽に参加し、意見を交わして、自分の世界を広げていただきたい。授業の後半では、模擬労働審判なども行いたい。

(3) 到達目標

- ①労働三法（労働基準法、労働契約法及び労働組合法）を中心とした労働関係法規に関する基本的な知識・考え方を説明できる。
- ②実際の事例を題材に、現実の社会問題について、法的なものの考え方の基本を意識しながら積極的に議論し、課題を解決できる。
- ③答えの分からない問題に対しても自分なりの筋道を立てて答えを導き、他者に対し、判断過程とともに説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	法とは何か	労働法関係の前提となる法や契約に関する基礎知識
2	憲法と労働関係	憲法における労働権の位置付けと労働条件の基本原則
3	就職活動と労働法	採用、内定、試用期間を中心とした労働契約開始の場面
4	就業規則	就業規則の意義・効力と、作成や変更に関する規制
5	賃金	賃金支払いの諸原則と最低賃金制度
6	労働時間・休暇	労働時間の原則と例外、休暇に関する諸規制
7	安全衛生と労働災害	労災保険法を中心に労働災害に対する補償制度を概観
8	職場内トラブル	セクハラ、パワハラなど、職場内で生じるトラブル
9	企業秩序と懲戒	懲戒に関する基本事項、人事にも若干触れる
10	労働契約の終了	解雇に関する基本事項と解雇権濫用法理
11	アルバイトと労働法	期間雇用、パートタイム労働及び労働者派遣の概観
12	労働紛争解決	労働委員会による紛争調整と司法的解決手続、とりわけ労働審判
13	模擬労働審判	模擬労働審判の実施
14	労働組合と不当労働行為	労働三権の意義と労働組合、不当労働行為
15	団体交渉と団体行動	団体交渉の意義と具体的内容

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回、テーマに沿ったレジュメを配布し、パワーポイント資料を用いて、実務経験も踏まえた基本的知識の説明を行う。裁判例や実務上の具体例、ニュースを挙げて、問題の所在や解決の方法をイメージしやすいようにする。できる限り毎回「今日の設例」を設定し、基本的知識を踏まえつつ双方向型で討議を行う。授業の最後に、出欠確認も兼ねて、簡単な感想を提出してもらう。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業における積極性及び感想（40%）、②定期試験に代わる期末レポート（60%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	労働法（Next教科書シリーズ）第3版	新谷真人（編）	弘文堂	2,530円
参考書	有斐閣アルマ『ベーシック労働法』第9版	浜村章弘ほか（著）	有斐閣	2,090円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

法学A・B

(9) オフィスアワー・その他

決まったオフィスアワーは設けないが、必要があれば時間を設けるので（要事前予約）、遠慮なくご相談されたい。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
政治学（民主主義と私たち）	吉澤 佑葵	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「政治」という言葉には、権力争いや不祥事といったネガティブな印象があるかもしれないが、社会の利害を調整し、共通のルールを作るための不可欠な仕組みである。

本講義では、まず政治学のキーワードである「権力」や「自由主義・民主主義」といった基本概念について学び、国家や政府がどのような歴史を経て、現在の「福祉国家」という形態に至ったのかを考える。また、民意を政治に反映させるための「議会」や「選挙」の仕組み、利益集団の役割など、政治が実際に動くプロセス（政治過程）にも焦点を当てる。講義の終盤では、グローバル化が進む中で国家の役割や、現代日本政治の課題についても考えたい。国内外のニュースや社会での出来事を、客観的かつ批判的に捉えるための力を身につけることが、本講義の目的である。

(3) 到達目標

- ① 政治学の基礎的な知識を習得する。
- ② ニュースや新聞の内容を政治学的な観点から関連付けることができる。
- ③ 習得した政治学の理論や知識によって、政治的事象を論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	政治学を学ぶ意義	政治学を学ぶための前提知識
3	権力とは何か	権力をめぐる諸理論
4	自由と自由主義	消極的・積極的自由と自由主義
5	自由主義と民主主義	自由民主主義体制の成立と課題
6	福祉国家とは	福祉国家の成立と課題
7	代表制と議会	議会の仕組みと議会制民主主義
8	執政部・官僚制	官僚制の課題と政官関係
9	政治過程とは①	政治過程のモデルと個人
10	政治過程とは②	政治過程における組織
11	選挙と政治参加	選挙制度と政治参加の多様化
12	現代のデモクラシー	デモクラシーをめぐる諸理論
13	中央地方関係・政府間関係	連邦制国家・単一国家における集権と分権
14	ガバナンス	ガバメントからガバナンスへ
15	現代の日本政治について	現代の日本政治の動向と課題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に講義形式で授業をおこなう（パワーポイントやレジュメを併用）。くわえて、国内外の動向を紹介する資料を配布する。講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等をおこなうこともある。予習は必要ないが、普段からさまざまな分野のニュース等に関心を持っておくことが望ましい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（60%）、② 授業での課題（30%）、③ 授業貢献度（10%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『政治学 第2版』	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2,420円
	『政治学 補訂版』	久米郁男・川出良枝 [他]	有斐閣	3,740円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

行政学、地方自治論の履修を考えるものは、履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、授業の前後に対応する。授業の進め方、内容等は第1回目の授業で説明する。なお、授業の進度・内容は、受講生の構成により若干変更の可能性がある。国内外の政治に関心がある幅広い学生を求める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
行政学（行政の仕組みを理解する）	吉澤 佑葵	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

現代社会において、政治的な決定の多くは行政を通じて具体化・実施され、私たちの生活に届けられる。したがって、今日の社会を理解するためには、政策の立案・実施を担う「行政」の構造と機能の理解が不可欠である。

本講義では、まず福祉国家化に伴う行政機能の拡大や官僚制論といった基礎的な理論について学ぶ。その上で、政治と行政の関係、日本の中央省庁の組織構造、公務員制度、および財政・予算の仕組みを体系的に解説したい。講義の終盤では、強い権限を持つ行政をどう監視・統制するかという「行政統制」や、人口減少時代に求められる「行政経営」のあり方についても目を向ける。行政の基本的な構造や機能を理解し、これからの行政のあり方を考える視座を養うことが、本講義の目的である。

(3) 到達目標

- ① 現代の統治の仕組み（三権分立）から行政の役割について述べることができる。
- ② 行政学の基礎的な理論を述べることができる。
- ③ 行政学の理論を現実の問題に応用することができる。
- ④ 今後の行政と国民・住民の関係をふまえ、これからの行政経営のあり方を論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	行政機能の肥大化と福祉国家	行政機能肥大化の歴史と福祉国家化
3	行政学の歴史と展開	行政学の成立と展開
4	官僚制をめぐる諸論点	官僚制の基本的構造と諸理論
5	行政の管理と組織の理論	行政の仕組みとメカニズム
6	執政制度（議院内閣制と大統領制）①	議院内閣制と大統領制の仕組み
7	執政制度（議院内閣制と大統領制）②	各国の執政制度と日本の課題
8	日本の行政組織①	中央省庁の仕組みやその特徴
9	日本の行政組織②	中央省庁等の改革の意義と課題
10	日本の公務員制度①	公務員制度の仕組みと人事行政
11	日本の公務員制度②	現代における公務員制度の課題
12	財政の役割	予算・決算制度の仕組みと財政の現状
13	行政責任と行政統制	行政統制の手法と責任の関係
14	地方自治と自治体行政	地方自治制度の仕組みと自治体行政の役割
15	これからの行政経営	これまでの講義の振り返りと人口減少時代の行政経営のあり方

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に講義形式で授業をおこなう（パワーポイントやレジュメを併用）。くわえて、政治・行政の動向を紹介する資料を配布する。講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等をおこなうこともある。予習は必要ないが、普段からさまざまな政治・行政のニュース等に関心を持っておくことが望ましい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（60%）、② 授業での課題（30%）、③ 授業貢献度（10%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『はじめての行政学 新版』	伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔	有斐閣	2,090 円
	配布プリント			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1 年生は政治学を履修することを勧める。関連科目：地方自治論。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、授業の前後に対応する。授業の進め方、内容等は第 1 回目の授業で説明する。なお、授業の進度・内容は、受講生の構成により若干変更の可能性はある。国内外の政治・行政に関心がある幅広い学生を求める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経営戦略論（企業の戦略を学ぶ）◆	矢賀部 裕	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

経営戦略論は、企業が競争優位性を確立し、維持するために採用する戦略について学ぶ学問分野である。この講義では、企業の外部環境（市場、業界、競合他社）と内部環境（資源、能力）を分析し、長期的な成功を収めるための戦略策定と実行について検討する。

また、演習において

- ① 基本的な事業分析フレームワークを体験することによって、経営戦略の理解を深める。
- ② ビジネスプランの簡易版を書けるようになり、起業者の実務を疑似体験する。

(3) 到達目標

- ①経営戦略に関する基本的な概念と理論を理解する。
- ②実務に基づいたケーススタディを通じて、理論の応用力を養う。
- ③現代のビジネス環境における戦略の重要性を批判的に考察できるようになる。
- ④このようにして習得した知識を基礎に、農業や地場産業などの身近な事業に応用する能力を身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス説明/経営戦略論の基本概念
2	全社・事業・機能戦略について	企業とは何か、企業の組織がどうなっているか、戦略意志決定がどのように行われるか
3	フレームワークについて①	事業方向性を決めるフレームワーク：アンゾフのマトリックス、PPM分析
4	フレームワークについて②	業界構造分析のフレームワーク：PEST分析、ポーターのファイブフォース
5	フレームワークについて③	事業戦略立案のためのフレームワーク：3C分析、SWOT分析
6	演習	身近な製品を例にとり、フレームワークを使い解析する
7	全社戦略：企業の中核技術	演習フィードバック/コア・コンピタンス、リソース・ベースド・ビュー（RBV）
8	全社戦略：多角化経営について	多角化企業について利点を学ぶ
9	全社戦略：垂直統合	垂直統合について学ぶ/ビジネスプランの書き方
10	ビジネスプランおよび演習	エレベーターピッチ説明/演習
11	全社事業戦略：ブルーオーシャン	レッドオーシャン・ブルーオーシャンについて学ぶ。
12	演習	エレベーターピッチの発表および講評
13	全社事業戦略：破壊的イノベーション	クリステンセンの理論解説
14	全社事業戦略：両利きの経営	破壊的イノベーションの解決策とも言われており、深掘する能力と探索する能力を学ぶ
15	機能戦略：製品ライフサイクル	製品ライフサイクル学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントを用い、講義形式で進める。講義では重要事項は板書するようにする。日頃から、講義で学んだ内容とのつながりを意識しながら企業活動に関する情報に触れることで、経営戦略の知識やものの見方を身につけていってもらいたい。また、学生は自らプレゼンテーションを行うことで、理解力をさらに高めるようにする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①期末レポート（60%）、②授業内の課題・授業貢献度等（40%）の合計により、総合的に評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門を受講することが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
人間関係論（企業内で形成される多様な人間関係）◆	上笹 恵	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

企業などの組織内で形成される、多様で複雑な人間関係や仕事の進め方についてみていく。最初に、経営学の原点である科学的管理法が確立するなかで発生した労働疎外の問題を取り上げる。そして、労働疎外を緩和、解消するための新しい枠組みとして登場した、人間関係論の理論の枠組みを理解する。それらをふまえ、組織内で形成される非公式組織や同調と逸脱、集団の凝集性を高める手法などを検討する。また、従業員の動機付けに関するモデルを取り上げ、彼らの有効な管理の方向性を見出す。

講義では抽象度の高い理論を紹介するだけでなく、可能な限り多くの事例を取り上げ、職場で役立つ物の見方を提示する。全体の調和を保って組織を運営するために、私たち一人ひとりに何ができるのか、受講生とともに考えたい。

(3) 到達目標

- ① 標準化や機械化が過度に進んだ職場で発生する労働疎外の現状について説明できる。
- ② 企業が従業員の意欲を高め、まとまりの良い組織をつくるための方法論を修得する。
- ③ 組織内で発生しがちな対立や葛藤について、建設的な緩和・解消の方法を提案できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	科学的管理論の展開①	経営管理の科学化、テーラーの科学的管理法、課業管理
3	科学的管理法の展開②	フォードの総合同時的管理論、科学的管理の功罪
4	人間関係論の芽生え	ホーソン工場実験、社会的欲求の充足
5	集団力学①	公式組織と非公式組織、集団の形成過程、集団凝集性
6	集団力学②	同調と逸脱、小集団の活用、プロジェクトチーム、会議と委員会
7	モチベーション①	満足と組織の成果、ハーズバーグの2要因説、公平説
8	モチベーション②	強化（学習）説、ポーターらの期待説、内発的動機づけ
9	組織ストレス①	組織ストレスのモデル、ストレスの諸相、バーンアウト
10	組織ストレス②	モデレーター要因の効用、対処行動、社会的支持
11	ジョブ・デザイン①	労働疎外と労働の人間化、職務充実・職務拡大、ハックマンモデル
12	ジョブ・デザイン②	ジョブ・デザインと組織との適合性、情報化とジョブ・デザイン
13	対人葛藤①	職場における人間関係、葛藤関係の効用、対人葛藤の動態
14	対人葛藤②	官僚制化と葛藤の関係、葛藤管理の実際、シュミットモデル
15	組織で働くために	ゆらぎと調和、組織における自由と規律

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書内容を能動的に理解しつつノートを取り、応用力が効く知識や物の見方を身につける。授業の中頃に新聞記事から企業の事例などを紹介し、理論と実際の問題との接点について考える時間を常にもつ。また、学んだ内容をとなりにいる学生に説明したり、意見を言い合ったりする時間を設ける。なお、出席カードに書く質問や情報はプライバシーに配慮したうえで共有し、理解を深める。復習するときには、学んだ内容を文章で書く訓練を続けることを望む。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90%）、② 授業への貢献度（10%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	使用せず			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営組織論、人的資源管理論と関連付けて学ぶと理解が深まる。

(9) オフィスアワー・その他

質問等には、授業の前後の時間または Teams を使って応じる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
消費者行動論（複雑化する消費行動の説明と予測）◆	上笹 恵	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

現代の市場においては、企業や個人が手がけるマーケティングの手法が高度化するのに伴って、品質の良い商品やサービスが市場空間を埋め尽くしている。その市場のなかで、消費者は無数といえる商品群のなかから購買を含めた何らかの意思決定を行っている。消費者の意思決定のあり方は多様性を帯びており、その実像を解明することが本講義の目的である。

複雑で多様な消費者の行動を理解するには伝統的な理論を知り、緻密な考え方に基いて人々の行動を観察する必要がある。それと同時に、最新の研究成果を把握しておくことが不可欠である。講義では消費行動の根底にある重要な理論と新しいトピックを紹介し、消費行動の分析を通じて自分や世の中への理解を深める点に主眼を置く。

(3) 到達目標

- ① 伝統的な消費者行動の理論を正確に理解している。
- ② 学んだ理論をもとに、多様化する消費者行動を一定レベルまで解き明かすことができる。
- ③ 消費者行動の理解をふまえた企業の適切なマーケティング戦略について提案できる。
- ④ 自らの消費行動の水準を引き上げ、消費を通じた心理的な豊さを実感できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	消費者行動とは何か	消費者行動の定義、消費者行動とマーケティング活動との関連性
3	消費者の購買意思決定プロセス	情報検索、代替案の評価、購買と購買後の評価、消費者行動の類型化
4	伝統的選択行動アプローチ	ハワード・シエスモデル、ベットマンの意思決定モデル
5	知覚と学習	露出、注意、組織化、解釈、古典的条件付け、道具的条件付け、観察学習
6	記憶と態度	記憶のメカニズム、短期記憶、長期記憶、製品関与、多属性態度モデル
7	ブランド選択の心理	合理的な選択、認知的不協和、ブランドロイヤルティ
8	セグメンテーション	人口統計的変数、地理的変数、心理的変数、VALS、AIOアプローチ
9	説得的コミュニケーション	発信源効果、メッセージ効果、精緻化見込みモデル
10	店頭マーケティング	状況、インスタ・マーチャンダイジング、非計画購買
11	集団	準拠集団、オピニオン・リーダー、ロコミ
12	集団内での消費行動	顕示的消費、ティドロ効果、トリクルダウン理論
13	特別な消費行動	贈り物と消費者行動、贅沢な消費行動、神聖な消費行動
14	消費者間の相互作用	情報処理と多重ネットワーク、ソーシャルメディアと消費行動
15	最近の消費者行動研究	新聞記事や経営、マーケティングの専門誌から新しい研究成果を紹介

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書内容を能動的に理解しつつノートを取り、応用力が効く知識や物の見方を身につける。授業の中頃に新聞記事から企業の事例などを紹介し、理論と実際の問題との接点について考える時間を常にもつ。また、学んだ内容をとりにいる学生に説明したり、意見を言い合ったりする時間を設ける。なお、出席カードに書く質問や情報はプライバシーに配慮したうえで共有し、理解を深める。復習するときには、学んだ内容を文章で書く訓練を続けることを望む。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90%）、② 授業への貢献度（10%）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	使用せず			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門

(9) オフィスアワー・その他

質問等には、授業の前後の時間または Teams を使って応じる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
マーケティング論（マーケティングの考え方に触れる）◆	矢賀部 裕	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

このコースでは、マーケティングの基本的な概念、戦略、手法について学び、実際のビジネス環境でそれをどのように活用するかを理解する。講義では、消費者行動、ブランド戦略、デジタルマーケティングなどの重要なテーマをカバーする。

マーケティングとは「製品を消費者に売り込む」ものではなく「製品が売れるようにする仕組みを作る」ためのものである。変化が激しい現代社会において、企業はさまざまな商品やサービスを開発し、消費者に受け入れられるような努力を続けている。過去から現在にいたるまで、企業は生き残りをかけてさまざまなマーケティング活動を展開していることを学ぶ。また、演習を通して、基本的なマーケティングのフレームワークを使えるようになることを目指す。

(3) 到達目標

- ① マーケティングの基本的な概念と理論を理解する。
- ② 市場調査と消費者行動に基づいた意思決定の方法を学ぶ。
- ③ 企業の戦略的マーケティング活動を設計、実行できる能力を身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス説明/マーケティングの基本概念
2	マーケティングとは	STPと4P/マーケティングの5つのステップ
3	BtoBとBtoCの違い	BtoBマーケティングとBtoCマーケティングの違いを理解する。
4	自社の現状把握①	3C分析/PPM分析/ファイブフォース分析
5	自社の現状把握②	SWOT分析/PEST分析
6	演習	身近な製品で分析を行ってみよう
7	ビジネスモデル①	演習講評/プラットフォーム戦略/オープン・クローズド戦略
8	ビジネスモデル②	ジレットやネスレのビジネスモデル/SPA戦略
9	ビジネスモデル③	フリーミア戦略/マーケティングの7P
10	ビジネスモデル④	BOPマーケティング/4つの競争地位
11	ビジネスモデル⑤	イノベーター理論とキャズム/製品ライフサイクル
12	マーケティング理論①	水平思考/PASONAの法則/マインドシェア
13	マーケティング理論②	ハワード・ジェスモデル/SNS（インフルエンサー、アンバサダー）
14	マーケティング理論③	結果価値と経過価値/コンテクスト・マーケティング/プロダクト・プレイスメント
15	マーケティング理論④	ドミナント戦略/ショールーミング、グルーポン/サービス・ドミナント・ロジック

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントを用い、講義形式で進める。講義では重要事項などは板書する。また、演習も途中段階で入れているので、自分の考えを述べてほしい。さらに、日常的に企業のマーケティング活動に興味を抱き、さまざまな記事に目を通してマーケティングに対する感性を養っていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末レポート（70%）、② 授業内の課題・授業貢献度等（30%）の合計により、総合的に評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営戦略論を受講することが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経営イノベーション論（イノベーションとは何かを学ぶ）◆	矢賀部 裕	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業の目的は、イノベーションの理論的背景とその実践的なアプローチを学び、学生がイノベーションを理解し、自ら実践的なイノベーションを推進する能力を育成すること。特に、イノベーションが経済、企業、社会に与える影響を理解し、創造的な解決策を見出すための方法論を学ぶ。また、イノベーションといえば、新技術や新商品の開発といった活動を思い浮かべる人が多いであろうが、かつてイノベーションは「技術革新」と訳され、画期的な技術や商品を意味する用語であった。しかし、現代においては「新たな技術やアイデアを活用することで、それまでにない価値を生み出し、社会に大きな変化をもたらすこと」という本来の意味が浸透してきていることを考え発展させていく。

(3) 到達目標

- ①イノベーションについて正しく理解すること。
- ②イノベーションを自ら考える土台を作ること。
- ③身近なもののイノベーションを感じられるようになること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方の説明/授業の全体像の把握
2	イノベーションとは何か	シュンペンターの新結合/ドラッカーの7つの機会
3	イノベーションのプロセス	イノベーションのプロセス（魔の川、死の谷、ダーウィンの海）
4	イノベーションのパターン	製品ライフサイクル/技術進捗のS字カーブ
5	企業の競争力の影響①	ラディカルイノベーションと既存大企業の不適合
6	企業の競争力の影響②	スマートフォンの事例
7	研究・技術開発のマネジメント①	技術ロードマップの作成と活用
8	研究・技術開発のマネジメント②	業界標準のマネジメント/デファクトスタンダード等
9	新製品開発のマネジメント	組織マネジメント・PMの役割
10	発想法	KJ法・NM法・シンキング法等
11	演習	発想法を用いたグループワーク
12	知的財産について	特許に触れてみよう
13	イノベーションの他種類	オープンイノベーション/リバースイノベーション/SECIモデル
14	環境からのイノベーション	環境観点からのイノベーション
15	生物模倣からのヒント	生物模倣（バイオミメティクス）について紹介

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントを用い、講義形式で進める。講義では重要事項などは板書する。また、演習も途中段階で入れているので、自分の考えを述べてほしい。また、日常的に企業のイノベーションに興味を抱き、さまざまな記事に目を通してイノベーションに対する感性を養っていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①期末レポート（70%）、②授業内の課題・授業貢献度等（30%）の合計により、総合的に評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営戦略論を受講することが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
観光ビジネス論（「稼ぐ観光」の設計：事業構想力の最前線）◆	永野 和雄	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

【目的】

観光需要を一時の「ブーム」で終わらせず、持続可能な「収益事業」へと転換させる経営ノウハウを学びます。自由な発想と、市場ニーズを捉える鋭い分析力を養い、自分だけのビジネスモデルをゼロから構想する力を手に入れます。

【概要】

本講義では「高収益ビジネスとしての観光」を徹底的に研究します。前半は、世界的な宿泊ビジネスの潮流やシェアリングエコノミー等の最新トレンドを分析し、中盤は、深刻な人手不足や旅館再生という日本の課題に対し、サウナやキャンプ、分散型ホテル等の成功事例などから収益化のセオリーを導き出します。後半はこれらの知見を用いて、大月市を舞台に実践的なビジネス創造に挑戦します。リサーチから収支計画策定、プレゼンテーションまでを行い、社会で即戦力となる「事業構想力」を身につけます。

(3) 到達目標

- ①観光ビジネスの構造理解：観光の世界的潮流を理解し、持続可能かつ高収益なビジネスモデルの構造を多角的に説明できる。
- ②課題解決に向けた戦略立案：人手不足や地域衰退等の課題を分析し、収益性と社会性を両立させた解決策を論理的に導き出せる。
- ③実践的な事業構想と提案：地域の資源を活かした事業収支計画を策定し、独自のビジネスモデルを構築・策定・説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	経験経済と観光ビジネスの潮流	「モノ」から「体験」といった観光の価値の変化を、最新ビジネスの潮流から学ぶ。
2	オルタナティブツーリズムへの変遷	大衆旅行の限界を知り、個性を売る「オルタナティブツーリズム」の仕組みを解明。
3	環境問題と観光ビジネスの革新	世界が注目するエコビジネス（「環境保護」を利益に変える）の成功戦略を分析。
4	健康志向に適合する観光商品	ウェルネス需要の潮流を捉えた、驚異的な高収益ビジネスモデルに迫る。
5	シェアリングエコノミーと収益化	Airbnb等の所有から共有へのシェア型サービスが変えた観光の新しいルール。
6	高収益宿泊業の世界的な潮流	世界の富裕層が積極的に選ぶブティックホテルなど宿泊業高収益化の最前線を解剖。
7	観光業の件数問題の解決方法	人手不足や件数高騰など、世界の成功例から、日本の観光業が生き残る術を探る。
8	実体験に基づく旅館再生の実際	斜陽する旅館を救うための、顧客設定からコスト削減まで、再生に向けた実践セオリー。
9	アルベルゴ・ディフーズの破壊力	街を一つのホテルにするイタリア発「分散型ホテル」の成功法則と日本での事例。
10	地方創生ビジネスの実際（1）	サウナで街が生き返る？地域資源を活かした新機軸のビジネスモデルをゼロから学ぶ。
11	地方創生ビジネスの実際（2）	キャンプ×循環型経営。地域を豊かにしながら稼ぎ出す、多角化収益の極意。
12	「大月市」観光ビジネスの魅力（1）	大月の魅力を再発見！持続可能なビジネスを立ち上げるための資源抽出と商品設計。
13	「大月市」観光ビジネスの魅力（2）	自分のアイデアを形に！大月を活性化させるビジネスモデルを磨き上げ、提案する。
14	「大月市」観光ビジネスの魅力（3）	理想を現実の「数字」に。事業を持続させるための具体的な収支計画を策定する。
15	「大月市」観光ビジネスの魅力（4）	観光ビジネスのプロへ。全15回の学びを凝縮し、次世代のリーダーへ向けた総括。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は「講義」と「ワーク」のハイブリッド形式で進めます。ビジュアル重視の講義でビジネスの理論を掴んだ後は、それを使って何をやるか？を自問自答する個人ワークに進みます。授業外で資料を整え、クラス全体に向けて自分のビジョンをプレゼンする。この一連のプロセスは、就活や社会人生活で求められる「論理的思考力」と「事業構想力」を最短距離で鍛えます。単位取得を超えた、一生モノのビジネス・スキルを手に入れましょう。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①個人によるプレゼンテーション（40%）、②授業後の感想や課題への記入（40%）、③授業中の発言など授業への貢献（20%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	とくになし。			
参考書	授業内において随時紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域文化遺産論、経営学入門、マーケティング論

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
商法（会社）	山崎 恭代	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

日本経済の担い手である企業の中で、特に株式会社の企業活動は、株主（投資家）、企業、労働者をはじめ、国民生活全般に影響を及ぼす重要なものである。本講義では、会社法の基礎知識を修得することを目標とし、株式会社の基本構造、社員の意義、株式の意義、株式制度、会社の機関（株主総会、取締役会）などを学ぶ。

株式会社制度の基本を理解したうえで、格差拡大、雇用不安、企業の倫理意識の低下などの、会社法の基本理念と密接に関連する現代的課題に対する問題意識を身につける。

授業内容の理解を深めるために、授業のテーマと関連する時事問題があれば、適宜紹介する。

(3) 到達目標

- ①会社企業の基本的な仕組みと運営について説明できる。
- ②起業や株式投資に必要な株式制度について説明できる。
- ③会社企業の法的仕組みを把握することによって、経済、経営、会計学に応用できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	会社の意義	会社とは何か、会社の法的意義を学ぶ
3	会社の種類	合名・合資・合同・株式会社という4種類の会社の意義と特色を把握する
4	社員の意義	社員とは何か、有限責任、無限責任とは何かについて学ぶ
5	会社の設立方法	株式会社の設立方法を修得する
6	株式の意義	株式の意義・内容、株券電子化の意義を考察する
7	株主の権利と義務	株主平等原則、株主の諸権利と義務について考察する
8	会社の機関①	株主総会の意義、権限、決議方法を学ぶ
9	会社の機関②	取締役会の意義、権限、決議方法を学ぶ
10	会社の機関③	監査役、会計参与の意義、権限について学ぶ
11	取締役の義務と責任	取締役の責任と、社外取締役、株主代表訴訟制度を学ぶ
12	株式会社の資金調達手段①	新株発行の意義、形態について学ぶ
13	株式会社の資金調達手段②	自己株式の取得とストックオプションについて学ぶ
14	企業の再編成（M&A）①	合併、親子会社について学ぶ
15	企業の再編成（M&A）②	株式交換・株式移転制度について学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を2~3問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	現代商法入門〔第12版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,310円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
企業法務論（商法一般、消費者取引）	山崎 恭代	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

今日の日本経済の発展が、企業活動によってもたらされていることは、疑う余地がない。そして、その企業活動から生ずる生活関係を規制対象とする法律が商法である。商法には、「商法」以外にも、会社法、特定商取引法、消費者契約法など、広く、ビジネスに関するルールを含む。

本講義では、企業関係を規律する基本法である商法（商法総則・商行為）、旧統一教会の被害者救済のために成立した改正消費者契約法や、特定商取引法などで規定されている、悪質業者から消費者を保護するための各制度や、事業者が守るべき法的ルールについて、解説を行う。商取引において適用されている特則は、一般原則である民法との比較において、紹介、解説を行う。

(3) 到達目標

- ①契約を締結する際の基本的なルールを説明できる。
- ②悪質商法の被害にあった場合に、適切に対処することができる。
- ③商業登記、商号、商業使用人、商業帳簿の仕組みを説明できる。
- ④普段利用している物品運送や旅客運送の仕組みと特色を、説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	商法総則 (1)	商人、消費者取引①（訪問販売）を学ぶ
3	商法総則 (2)	商業登記、消費者取引②（ネガティブオプション①）を学ぶ
4	商法総則 (3)	商号、消費者取引③（ネガティブオプション②）を学ぶ
5	商法総則 (4)	商業帳簿、消費者取引④（電話勧誘販売）を学ぶ
6	商法総則 (5)	商業使用人（支配人等）、消費者取引⑤（クーリングオフ①）を学ぶ
7	商法総則 (6)	代理商、消費者取引⑥（クーリングオフ②）を学ぶ
8	商行為 (1)	商行為①、消費者取引⑦（クーリングオフ③）を学ぶ
9	商行為 (2)	商行為②、消費者取引⑧（クーリングオフ④）を学ぶ
10	商行為 (3)	商事売買、消費者取引⑨（訪問購入①）を学ぶ
11	商行為 (4)	企業取引の補助者①、消費者取引⑩（訪問購入②）を学ぶ
12	商行為 (5)	企業取引の補助者②、消費者取引⑪（事業者の規制）を学ぶ
13	商行為 (6)	運送営業（物品運送）、消費者取引⑫（通信販売）を学ぶ
14	商行為 (7)	運送営業（旅客運送）、消費者取引⑬（特定継続的役務提供）を学ぶ
15	商行為 (8)	匿名組合、消費者取引⑭（消費者契約法）を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を、2～3問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	現代商法入門〔第12版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,310円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
保険論（はじめて学ぶ保険の仕組み）◆	福地 幸文	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、はじめて保険について学ぶ人を対象にして、主に民間の保険の仕組みや制度の現状などを、理論と統計を中心に学ぶ。自動車保険や年金保険など保険加入は生活に密着した身近な問題で、保険産業は募集関係だけでも延べ数百万人を超える人々に関わる一大産業になっている。一方、保険は複雑な仕組みで、自分の加入している保険の保障（補償）内容がよく分からないという人が多くいるのも事実である。しかし、順序立てて学べば比較的スムーズに基本的な保険制度を理解できるようになる。特にこの授業では、生命保険の保険料計算演習を実施し、より実践的に金融リテラシーを習得できる授業となるように努める。

(3) 到達目標

- ① 保険の原理や機能を理解できている。
- ② 保険契約の基礎知識を習得している。
- ③ 社会保険と民間保険の補完関係を考察できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	くらしの中の保険	授業内容の説明、不安を減らすための方法、保険と貯蓄の違い
2	保険の原理1	リスクの概念、保険の基礎知識、保険の基本要素
3	保険の原理2	保険制度の基本原則、保険のマクロ経済的役割、保険料の構造
4	保険の歴史	保険のマクロ経済的役割、海上保険、火災保険、生命保険、日本の保険の歴史
5	現在の保険制度	保険を規制する必要性、保険規制の歴史と今後
6	保険契約者の保護	保険契約者の保護、保険会社の破綻とその対応
7	金融機関としての保険会社	保険会社の資産運用とポートフォリオ、予定利率と逆ざや問題、保険料計算演習
8	保険会社の経営課題	相互会社と株式会社、リスク細分化と新しい保険商品
9	生命保険商品	生命保険商品の種類、解約返戻金と契約内容を変更するための制度
10	火災保険	住宅火災保険、地震保険
11	自動車保険	自動車賠償責任保険（自賠責保険）、任意自動車保険
12	その他の保険	第三分野の保険、その他の保険
13	社会保険	公的医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険
14	年金	長寿化と老後生活の保護、公的年金制度、企業年金
15	新しい保険の登場	天候保険と天候デリバティブ、CAT ボンド、代替的リスク移転

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
- ② Teams を使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50%）、② 授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	はじめて学ぶ保険のしくみ 第3版	家森信義編著	中央経済社	2640円
参考書	はじめて学ぶリスクと保険 第5版	下和田功編	有斐閣	3080円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

(9) オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本文化講義A(新聞・雑誌記事を中心に日本文化を学ぶ)	渡邊 浩史	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。

(2) 授業概要と目的

新聞や雑誌で紹介された日本文化に関する記事を中心に、そこから日本文化について様々な知識を習得するとともに、グループワークを通じてより深い理解につなげていく。講義の進め方としては、第1に新聞・雑誌で紹介された様々な日本文化に関する内容を学んでもらう。次に、そこで見出された問題点についてさらに深めていくために、受講者がディスカッションを通してより深い理解につなげていく。本講義を通して、世の中に生起する様々な日本の文化に関心をもち、今後自分たちが選択する専門分野の重要性について理解してもらうことも目的である。

(3) 到達目標

- ① 新聞・雑誌記事の読解能力のスキルを学ぶ。
- ② グループワークでのディスカッションを通して、最近の日本文化の背景を学び、より深い(情報)の獲得を目指す。
- ③ 様々な日本文化に触れることを通して、専門分野で研究する重要性について理解できるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	新聞記事の基礎知識	新聞や雑誌記事の特徴・読むときの注意点などについて説明する
3	日本文化に関しての説明	幾つかの項目に分けて説明していく
4	新聞・雑誌記事による日本文化①	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
5	新聞・雑誌記事による日本文化②	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
6	新聞・雑誌記事による日本文化③	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
7	新聞・雑誌記事による日本文化④	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
8	新聞・雑誌記事による日本文化⑤	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
9	新聞・雑誌記事による日本文化⑥	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
10	新聞・雑誌記事による日本文化⑦	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
11	新聞・雑誌記事による日本文化⑧	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
12	新聞・雑誌記事による日本文化⑨	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
13	新聞・雑誌記事による日本文化⑩	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
14	新聞・雑誌記事による日本文化⑪	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
15	総括	全体のまとめ

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

授業は教員が提示する幾つかの日本文化の紹介・説明を受けた学生が、より深い理解度に到達するためにグループワークを行うという形式で進めていく。グループワークによって高められた理解度の成果については、毎回行うコメントペーパーによって確認する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題(60%)、② 定期試験に代わるレポート(40%)の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

社会文化入門C1や履修後の日本文化講義Bなど。その他「社会文化分野」に関する講義の積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性はある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本文化講義B(文学作品・雑誌記事を中心に日本文化を学ぶ)	渡邊 浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。

(2) 授業概要と目的

日本文化に関して、後期は前期の日本文化講義Aよりもより深い内容に迫っていく。後期は哲学的な内容や社会学的な内容をより深めた記事を扱い、そこから日本文化について様々な知識を習得するとともに、グループワークを通じてより深い理解につなげていく。講義の進め方としては、前期の日本文化講義Aとほぼ同じ進め方で行う。第1に教員が選択した記事で紹介された様々な日本文化に関する内容を学んでもらう。次に、そこで見出された問題点についてさらに深めていくために、受講者がディスカッションを通してより深い理解につなげていく。本講義を通して、様々な日本文化に関心をもち、今後自分たちが選択する専門分野の重要性について理解してもらうことも目的である。

(3) 到達目標

- ① 日本近現代文学作品の読解能力のスキルを学ぶ。
- ② グループワークでのディスカッションを通して、作品に現出する日本文化の背景を学び、より深い(解釈)の獲得を目指す。
- ③ 様々な日本文化に触れることを通して、専門分野で研究する重要性について理解できるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	文化とは何か	文化の定義
3	哲学的/社会学的記事での日本文化①	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
4	哲学的/社会学的記事での日本文化②	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
5	哲学的/社会学的記事での日本文化③	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
6	哲学的/社会学的記事での日本文化④	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
7	哲学的/社会学的記事での日本文化⑤	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
8	哲学的/社会学的記事での日本文化⑥	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
9	哲学的/社会学的記事での日本文化⑦	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
10	哲学的/社会学的記事での日本文化⑧	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
11	哲学的/社会学的記事での日本文化⑨	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
12	哲学的/社会学的記事での日本文化⑩	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
13	哲学的/社会学的記事での日本文化⑪	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
14	哲学的/社会学的記事での日本文化⑫	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
15	総括	全体のまとめ

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

授業は教員が提示する幾つかの日本文化の紹介・説明を受けた学生が、より深い理解度に到達するためにグループワークを行うという形式で進めていく。グループワークによって高められた理解度の成果については、毎回行うコメントペーパーによって確認する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題(60%)、② 定期試験に代わるレポート(40%)の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

社会文化入門C1や日本文化講義Aなど。その他「社会文化分野」に関係する講義の積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性はある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義A (アジアの言語と社会)	松岡 昌和	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている(日本語、英語、第二外国語の修得)。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

本講義では、特に自他ともに認めるアジアの「多言語社会」であるシンガポール・マレーシア・台湾を取り上げ、その歴史から言語政策やマイノリティの運動など現代社会の状況までを言語という視点からとらえていく。言語は一般的にコミュニケーションの単なる道具で、中立的なものであるかのように見られているが、言語は地域文化や政治・経済と切り離して考えることはできない。言語教育・言語学習もまた、価値中立的な営みではなく、そこに文化・政治・経済の諸要因がはたらく。言語をとりまくこれらの要素は、特に「多言語社会」において顕著に見ることができる。言語と地域文化や政治・経済との関係を見ていくを通じ、多様性に富むアジア文化について理解を深めていきたい。同時に、他国の事例を通じて、「多言語社会」日本の現状について考えていく契機にもしたい。

(3) 到達目標

- ① 言語を文化・政治・経済の観点からとらえ、多言語社会や異文化コミュニケーションへの理解を深めていく。
- ② 言語をとりまくさまざまな問題を認識することで、批判的思考を身につけていく。
- ③ 高等学校の世界史や公民科の知識を発展させ、アジア文化への理解を深めていく。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	言語とはなにか
2	言語と社会(1)	方言・国語・公用語
3	言語と社会(2)	多言語社会・ダイグロシア・言語政策・言語権・ビジン・クレオール
4	言語と社会(3)	言語帝国主義・World Englishes
5	シンガポールの言語と社会(1)	東南アジアの歴史と文化
6	シンガポールの言語と社会(2)	植民地統治・移民・「複合社会」
7	シンガポールの言語と社会(3)	英語国家としてのシンガポール
8	シンガポールの言語と社会(4)	華人社会としてのシンガポール
9	マレーシアの言語と社会(1)	多言語社会としてのマレーシアとマレー語世界としてのマレーシア
10	マレーシアの言語と社会(2)	英語化するマレーシア
11	台湾の言語と社会(1)	台湾の歴史と文化
12	台湾の言語と社会(2)	植民地統治・日本語教育
13	台湾の言語と社会(3)	戦後台湾の言語と社会
14	台湾の言語と社会(4)	民主化以降の多言語社会
15	まとめ	社会の多言語性を考える

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義形式で行う。教科書は使用しない。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。必要に応じて映像も用いる。中国語などアジア言語の学習は前提としないが、知識があると有用である。高等学校レベルの世界史や公民科の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。下記の参考書のほか、適宜講義において参考書を紹介する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(100%)

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	『社会言語学の名なざし』	佐野直子	三元社	1,760円
参考書	『東南アジアを学ぶ人のために』	中西嘉宏・野中葉編	世界思想社	2,420円
参考書	『台湾の歴史と文化』	大東和重	中央公論新社	1,100円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、ドイツ語、英語など外国語関連科目、海外語学研修B、アジア文化講義B、国際関係論(A・B)、社会学(A・B)など

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義B (海域アジアのなかの日本)	松岡 昌和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。一方で、歴史を見る際に現代の主権国家を過去に投影してしまう危険もある。本科目では、国民、国境、一元化された政府といった現代国家のかたちを前提とせず、広く海域アジアやグローバル世界のなかに日本列島を位置づけてその歴史について考えていきたい。それにより、「日本」の成り立ちの多様性を知り、歴史という営みを通じて批判的な思考を身につけることを目標とする。本科目では、主に古代から近世までの時代を扱い、一部近代についても触れる。

(3) 到達目標

- ① 歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
- ② 異なる世界を知ることにより異文化に対する理解を深めていく。
- ③ 歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
- ④ さまざまな歴史観・世界観を知ることにより批判的な思考をできるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	
2	海域アジア概論1	「日本」とは何か
3	海域アジア概論2	海域世界から日本を見る
4	通史編1 (～9世紀)	律令国家と東アジア
5	通史編2 (10～12世紀)	国交なき通商の拡大
6	特別編1	国風文化は「国風」か～唐物の歴史
7	通史編3 (13～14世紀)	モンゴル帝国と日本
8	通史編4 (15～16世紀)	倭寇の時代
9	通史編5 (17世紀)	「鎖国」という外交
10	特別編2	日本社会は「無宗教」か
11	通史編6 (18世紀I)	互市システムと鎖国
12	通史編7 (18世紀II)	東アジア・東南アジアの「伝統社会」
13	通史編8 (19世紀)	近代世界と東アジア
14	特別編3	近代化と「伝統の創造」
15	まとめ	

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義形式で行う。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。教科書は使用しない。必要に応じて映像も用いる。高等学校レベルの世界史・日本史の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。参考書は下記のほか、講義の際に適宜紹介する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験(100%)

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	『東アジア海域のなかの日本 歴史・交易・文化』	山崎寛士	東方書店	1,980円
参考書	『東アジア海域から眺望する世界史』	鈴木英明編	明石書店	4,180円
参考書	『3か月でマスターする 江戸時代』	野島博之ほか	NHK出版	1,760円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

アジア文化講義A、国際関係論A、世界史

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
欧米文化講義B (近世北アメリカ)	塚田 浩幸	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

アメリカ合衆国がまだなかった時代の歴史をその国家の枠組みで書いてきた不条理さを克服し、近世北アメリカ史研究は先住民とヨーロッパ人のせめぎあいの時代として、その時代特有の見方がなされるようになっていく。この授業では、ここ数十年の近世北アメリカ史研究の空間論的転回ならびに先住民論的転回の成果（どこからどこまでを研究対象にするか、誰の目線で叙述するか等の変化）をふまえ、先住民・植民者関係の様々な事象を、歴史上あるいは現代の他の地域にも適用できそうな（現にされているものも含む）概念やキーワードを使いながら考察する。

(3) 到達目標

- ① これまでの専門的議論の歩みを理解するとともに、依然残っている問題を抽出するなかで、既存の歴史像や学問のあり方を批判的に問い直すことができるようになる。
- ② 歴史に向き合う際の観点・見地の多様性を理解し、歴史上あるいは現代の問題を複眼的に考察することができるようになる。
- ③ 近世北米史像をベースにして、地域的特性・歴史的背景をふまえた合衆国理解を身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	北米大陸／アメリカ合衆国の全体像
2	初期アメリカの研究史	フロンティア学説、空間論的転回、先住民論的転回
3	大陸史、植民地主義の類型	大陸的視座からみた近世史の流れ
4	大西洋史、奴隷制、1619 プロジェクト	奴隷制の法的根拠・正当化言説、ならびにその暴力的慣行の広まり
5	事件と構造、学問の自由とその制約	ポカホンタス助命の真偽をめぐる議論、歴史学研究の方法論上の植民地主義的問題
6	異文化コミュニケーション	不確実性低減理論、コミュニケーションのモデル
7	文化相対主義、翻訳方略、ジェンダー	ディズニー『ポカホンタス』視聴
8	男性的文化、女性的文化	ホフステードの文化の6次元などの議論をふまえて異文化衝突を考察
9	複合君主政、新しいブリテン史	アメリカ先住民を含むかたちでのイギリス帝国史の再構築
10	アイデンティティ	アイデンティティの複合性・重層性、他者化
11	ジェノサイド	ピークオット戦争を例にしたジェノサイドの構成要件・共犯関係の考察
12	セトラー・コンプレックス	17～18世紀ニューイングランドの異人種間の同盟関係
13	先住民の複合国家	ホデノシヨニ（イロコイ）先住民の政体原理
14	合衆国の人民主権・連邦制国家の原理	独立戦争から強制移住までの対先住民関係・先住民政策の転換
15	文化相対主義の復習、異文化適応	ディズニー『ポカホンタス II』視聴

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

投影資料を用いた講義形式を主とするが、映画の視聴や、受講者どうしの少人数のグループで考えを共有する機会を設ける。また、予習・復習になる一次史料・二次文献をこちらで指定し、授業外でそれを読み授業内で解説することで専門的な議論に直に触れつつ、各自の理解を促進させる。各回（毎回の義務とはしない）、コメントシートを回収し、適宜次回の授業時などでそれに応答する。

(6) 成績評価の方法と基準

① 授業貢献度・コメントシート 25%、② 文献の読解（3つ） 45%、③ 期末レポート 30%（授業内で扱った概念やキーワードを、歴史上または現代の他の事例、関連する映画その他文学作品、ないしは自分自身のことにあてはめて考察する）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域的にはアメリカやヨーロッパに関する科目、ならびに帝国主義・植民地主義の経験という意味では世界史全般。テーマ的には歴史、文学、国際法、国際関係、人種や民族、ジェンダーを扱う科目。

(9) オフィスアワー・その他

授業内容に関する質問はコメントシートを介して、または授業前後の教室で直接受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際関係論A (異文化間衝突と紛争予防の学習)	荒 哲	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

この授業では、中学校や高校で十分教えられてこなかったと思われる日本近現代史を国際関係論的視点に基づきながら学習する。その中でも特に19世紀後半の江戸時代末期から現代までの日本史の学習を行う。日本が欧米文化を吸収しつつ、富国強兵に基づいた近代国家の基礎を築きながら、その後、全体主義体制へと国家全体が傾倒し、帝国主義の道を歩んでいった過程を学ぶ。その後、アジア太平洋戦争に敗北し、戦後の冷戦環境の国際関係の中で平和国家構築を目指しつつも、一方で外交、安全保障面において対米依存を深化させ、とりわけ対米政策において独自外交を発揮できない現在の矛盾に満ちた日本外交と日本国内政治の特色を理解していく。

(3) 到達目標

現代の日本社会文化の本質的背景をこの授業を通しながら理解できるようにする。日本近代化の歴史が実のところ、アジア蔑視感に基づいた内政・外交によって形成されてきた事実を一つ一つの史実を掘り下げながら理解できるようにする。そして、現在の日本社会に未だに根付く反民主的かつ反動的な文化的ないし社会的背景を説明できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授 業 内 容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	日本を取り巻く環境	日本と近隣諸国(中国、朝鮮半島との関係)
3	幕末時代の国際環境	19世紀末の日本を取り巻く国際関係
4	日本の朝鮮半島支配	3・1独立運動について
5	日清戦争と日露戦争について	日本帝国主義の起源
6	第一次世界大戦について	世界史上初の総力戦とは
7	共産主義の勃興について	資本主義が生み出した社会矛盾と大衆運動
8	第二次世界大戦について	戦間期の欧米と欧米植民地主義
9	日本に期待したアジア民族主義者	フィリピン革命家、リカルテ将軍について
10	日本のアジア侵略の歴史	全体主義国家への傾倒、治安維持法の制定
11	東京裁判について その1	明治時代以降の日本近代史について
12	東京裁判について その2	東京裁判に見る国体護持の問題、戦争責任問題
13	ナチスの勃興とホロコースト	ユダヤ人に対する迫害と大量虐殺
14	戦後復興のヨーロッパ	非ナチ化政策と冷戦の始まり
15	現代日本社会の政治的諸問題	21世紀前後の日本政治の多様性。連続する保守主義と右傾化する日本社会の中の若者

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の15分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

(6) 成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%とする。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書				
参考書	日本政治史 -- 外交と権力 増補版	北岡伸一	有斐閣 2017年	2,200円
	日本史は逆から学べ	河合 敦	光文社 2018年	1,452円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

アジア文化講義

(9) オフィスアワー・その他

月曜日 15時~16時、第8研究室にて。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際関係論B (異文化間衝突と紛争予防の学習)	荒 哲	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準 (ディプロマ・ポリシー) との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している (導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

この授業では、16世紀の終わり頃から始まったヨーロッパの大航海時代により欧米諸国の植民地支配を受けたアジア諸国における植民地史の学習をする。その後、19世紀の後半から顕著となった日本帝国主義の歴史を主に学習する。同時に欧米諸国による植民地支配の歴史と比較検討しつつ、明治維新以降、日本がいかんにして膨張主義あるいは領土拡張主義的外交を模索しながら、なぜ帝国主義の道を歩まざるを得なかったのか、その要因を探る。そして、最終的にアジア太平洋戦争という未曾有の惨禍を招いた要因を探りながら、複雑な国際関係の中で、今後日本がいかんにして暴力の連鎖に依らない平和へのビジョンを構築していくかを考えていく。

(3) 到達目標

中学校の社会並びに高校の日本史や世界史の授業において深く学ぶ機会が少なかったと思われる19世紀以降のアジアにおける欧米諸国による植民地史並びに日本帝国主義の歴史について基礎的な知識を習得する。アジア太平洋戦争がもたらした暴力と惨禍についても詳細に認識できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	冷戦の始まり	第二次世界大戦に始まった冷戦とは
3	ヒトラーのナチズム	1930年代のドイツを席卷したナチズムについて
4	ホロコースト	なぜユダヤ人は殺されなければならなかったのか
5	戦後復興のヨーロッパ	戦後復興と社会分断に喘ぐかつてのドイツ占領下の国々
6	第二次世界大戦後のアジア	冷戦下のアジアについて
7	戦後復興の東南アジア	旧日本占領下にあった国々の問題
8	インドシナ紛争	アメリカのベトナム介入
9	カンボジア紛争	米軍撤退後のベトナム
10	南北に分断された朝鮮半島	朝鮮戦争について
11	アメリカの世界政策	CIAの暗躍について (イランの例、南米の例)
12	ジェンダーの文脈から見た歴史 1	社会史の中のジェンダー論について (映画、Casualties of War)
13	ジェンダーの文脈から見た歴史 2	近代化途上の日本社会の矛盾 (映画、二十四の瞳)
14	現在の国際関係について	米中が台頭する国際政治
15	日本を取り巻く国際関係 (総括)	21世紀の日本を取り巻くアジアの国際関係について

(5) 授業の進め方と方法 (授業時間外の学習)

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の15分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるように工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

(6) 成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%とする。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	国際政治史	小川浩之編著	有斐閣 2018年	2,530円
	危機の20年	EHカー (原 彬久 翻訳)	岩波文庫 2011年	1,452円
	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川 2007年	2,200円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目 (他の科目との前後のつながり)

アジア文化講義

9) オフィスアワー・その他

月曜日 15時~16時、第8研究室にて。